
平成 27 年度

県政世論調査
(概要版)

香川県

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査設計	1
4. 回収状況	1
5. サンプル設計	1
6. 報告書の見方	2
第2章 調査回答者の属性	3
1. 性別	3
2. 年齢	3
3. 職業	4
4. 圏域	4
5. 居住年数	5
第3章 調査の集計結果	7
1. ボランティア・NPO活動について	7
2. 防災意識・防災対策について	16
3. 食習慣・生活習慣について	30
4. 地域医療の充実について	36
5-A. 子どもの教育(学校)について	46
5-B. 子どもの教育(家庭・地域)について	55
5-C. 子どもの教育全般について	60
5-D. 生涯学習・スポーツについて	64
6. 県政の重要度と満足度について	71

<第1章 調査の概要>

第1章 調査の概要

1. 調査目的

県政の諸問題について、県民の意見や要望等を把握し、今後の施策立案に際しての基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査項目

- (1) ボランティア・NPO活動について
- (2) 防災意識・防災対策について
- (3) 食習慣・生活習慣について
- (4) 地域医療の充実について
- (5) 教育について
- (6) 県政の重要度と満足度について

3. 調査設計

- (1) 調査地域 香川県全域
- (2) 調査対象 満20歳以上の県民
- (3) 標本数 3,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法
- (6) 調査時期 平成27年6月10日～7月1日

4. 回収状況

- (1) 標本数 3,000
- (2) 有効回収数 1,576 (52.5%)

5. サンプル設計

- (1) 母集団 香川県内の市町に居住する満20歳以上の県民
- (2) 標本数 3,000
- (3) 地点数 150地点(市部：125地点、町部：25地点)
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

【層化】

県内の市町(8市9町)を次のように5圏域に分類した。

圏域名	構成市町
1 高松圏域	高松市・三木町・直島町・綾川町
2 東讃圏域	さぬき市・東かがわ市
3 小豆圏域	土庄町・小豆島町
4 中讃圏域	丸亀市・坂出市・善通寺市・宇多津町・琴平町・多度津町・まんのう町
5 西讃圏域	観音寺市・三豊市

さらに、各圏域内を市町の規模によって、

- ①高松市 ②高松市以外の市 ③町 に分類して、それぞれを層とした。

【 標本数の配分 】

各層における母集団数（平成27年4月2日現在の選挙人名簿登録者数）の大きさにより、3,000の標本数を比例配分した。

【 抽出 】

- ①第1次抽出単位となる調査地点として、平成27年4月2日現在の投票区を使用した。
- ②調査地点数については、1調査地点あたりの標本数が20前後になるように、各層に割り当てられた標本数から算出して決定した。
- ③調査地点の抽出は、調査地点数が2地点以上割り当てられた層については、

$$\left(\frac{\text{層における選挙人名簿登録者数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right)$$

を算出し、等間隔抽出法により該当番目が含まれる投票区を抽出した。

- ④抽出に際しての各層内における市町の配列順序は、総務省設定の市町村コードに従った。
- ⑤調査地点における対象者の抽出は、調査地点（投票区）内から選挙人名簿によって等間隔抽出法で抽出した。
- ⑥以上の結果、圏域別・市町規模別における標本数・調査地点数は次のとおりである。

【 圏域別・市町規模別 標本数および調査地点数 】 上段:母集団数 下段:標本数、()内は調査地点数

圏域 \ 市町別	高松市	高松市以外の市	町	計
1 高松圏域	345,758 1,266 (63)		46,806 172 (9)	392,564 1,438 (72)
2 東讃圏域		71,252 261 (13)		71,252 261 (13)
3 小豆圏域			26,345 96 (4)	26,345 96 (4)
4 中讃圏域		163,236 598 (30)	57,507 210 (12)	220,743 808 (42)
5 西讃圏域		108,344 397 (19)		108,344 397 (19)

6. 報告書の見方

- (1) 回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出し、少数第2位を四捨五入した。
このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 複数回答の設問の場合、回答は選択肢の有効回答数に対し、それぞれの割合を示しています。このために、その比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- (3) 図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合があります。
- (4) 本文、図表、集計表に用いた符号等の意味は次の通りです。

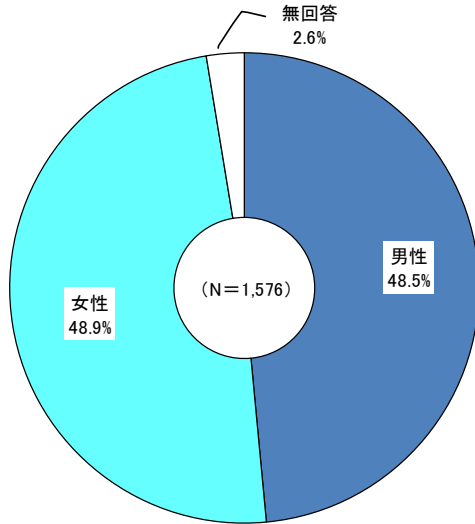
N：質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数

<第2章 調査回答者の属性>

第2章 調査回答者の属性

1. 性別

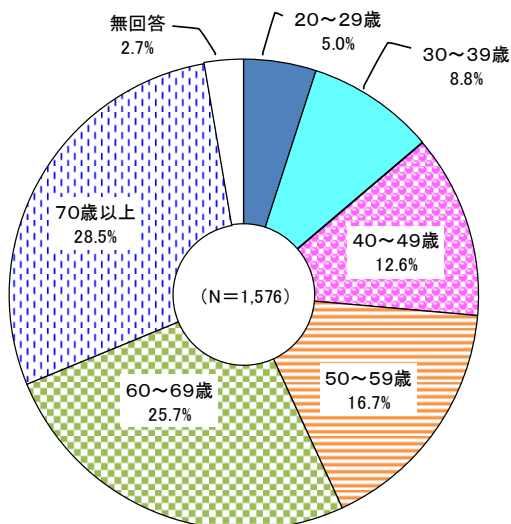
性別について、「女性」(48.9%)、「男性」(48.5%) となっている。



項目	回答数 (人)	構成比 (%)
男性	765	48.5
女性	770	48.9
(無回答)	41	2.6
計	1,576	100.0

2. 年齢

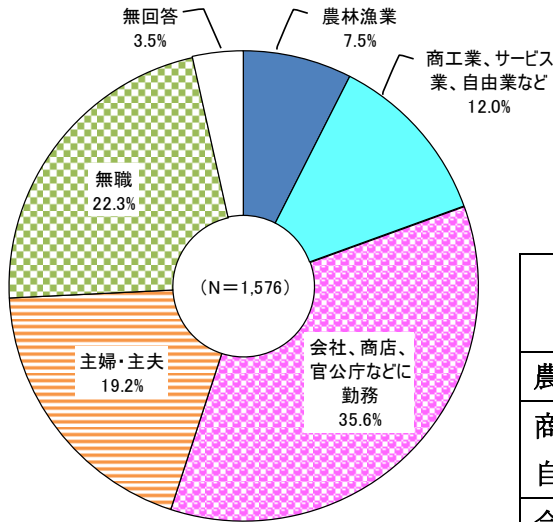
年齢について、「70歳以上」(28.5%) が最も多く、次いで「60～69歳」(25.7%)、「50～59歳」(16.7%)、「40～49歳」(12.6%) となっている。



項目	回答数 (人)	構成比 (%)
20～29歳	79	5.0
30～39歳	139	8.8
40～49歳	199	12.6
50～59歳	263	16.7
60～69歳	405	25.7
70歳以上	449	28.5
(無回答)	42	2.7
計	1,576	100.0

3. 職業

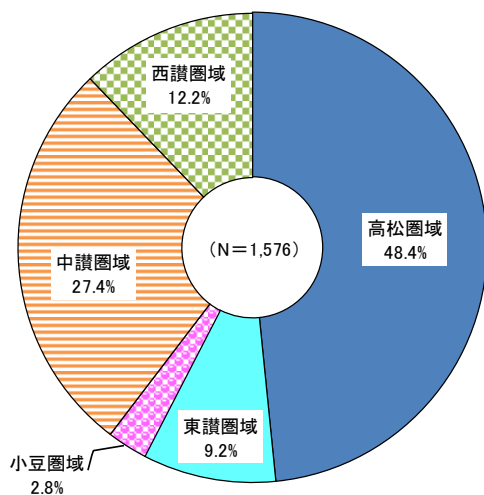
職業について、「会社、商店、官公庁などに勤めている」(35.6%)が最も多く、次いで「無職(学生を含みます)」(22.3%)、「主婦・主夫」(19.2%)、「商工業、サービス業、自由業などを営んでいる」(12.0%)などとなっている。



項目	回答数 (人)	構成比 (%)
農林漁業	118	7.5
商工業、サービス業、自由業など	189	12.0
会社、商店、官公庁などに勤務	561	35.6
主婦・主夫	302	19.2
無職	351	22.3
(無回答)	55	3.5
計	1,576	100.0

4. 圏域

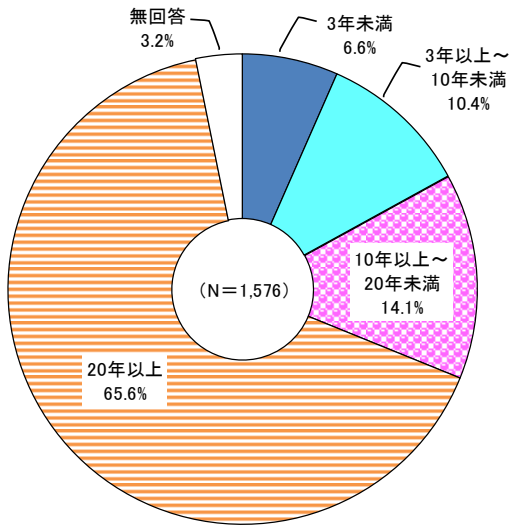
圏域について、「高松圏域」(48.4%)が最も多く、次いで「中讃圏域」(27.4%)、「西讃圏域」(12.2%)、「東讃圏域」(9.2%)などとなっている。



項目	回答数 (人)	構成比 (%)
高松圏域	763	48.4
東讃圏域	145	9.2
小豆圏域	44	2.8
中讃圏域	432	27.4
西讃圏域	192	12.2
(無回答)	-	-
計	1,576	100.0

5. 居住年数

居住年数について、「20年以上」(65.6%)が最も多く、次いで「10年以上～20年未満」(14.1%)、「3年以上～10年未満」(10.4%)、「3年未満」(6.6%)などとなっている。



項目	回答数 (人)	構成比 (%)
3年未満	104	6.6
3年以上～10年未満	164	10.4
10年以上～20年未満	223	14.1
20年以上	1,034	65.6
(無回答)	51	3.2
計	1,576	100.0

<第3章 調査の集計結果>

第3章 調査の集計結果

1. ボランティア・NPO活動について

(1) ボランティアやNPO活動に対する関心度

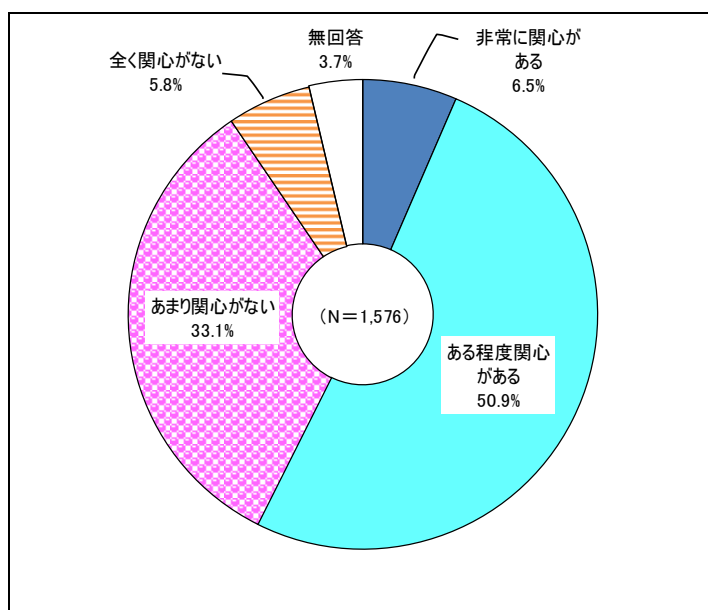
問1 あなたは、ボランティアやNPO活動にどの程度関心がありますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1 非常に関心がある	6.5%
2 ある程度関心がある	50.9%
3 あまり関心がない	33.1%
4 全く関心がない	5.8%
(無回答)	3.7%

ボランティアやNPO活動に対する関心度について、「ある程度関心がある」(50.9%)が最も多く、次いで「あまり関心がない」(33.1%)、「非常に関心がある」(6.5%)、「全く関心がない」(5.8%)などとなっている。

図表 1-(1)-1 ボランティアやNPO活動に対する関心度



(2) ボランティアやNPO活動の経験の有無

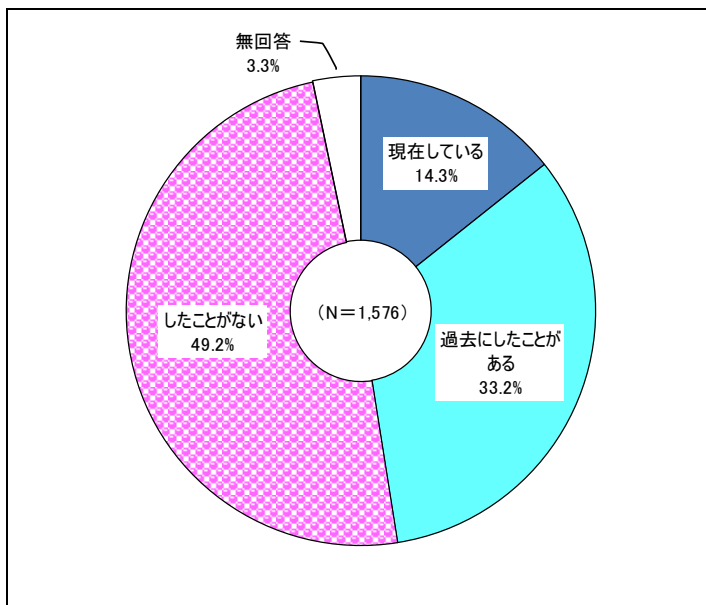
問2 あなたは、これまでにボランティアやNPO活動をしたことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1 現在している	⇒ 付問1にお進みください	14.3%
2 過去にしたことがある	⇒ 付問1および付問3にお進みください	33.2%
3 したことがない	⇒ 付問2および付問3にお進みください	49.2%
(無回答)		3.3%

ボランティアやNPO活動の経験の有無について、「したことがない」(49.2%)が最も多く、次いで「過去にしたことがある」(33.2%)、「現在している」(14.3%)などとなっている。

図表 1-(2)-1 ボランティアやNPO活動の経験の有無



(3) これまでに経験があるボランティアやNPO活動

【問2で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問1 あなたがこれまでにしたことがあるボランティアやNPO活動を次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=748】

1	保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）	41.4%
2	社会教育関係（生涯学習、生きがいつくり支援活動など）	10.0%
3	まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）	59.6%
4	観光の振興関係（観光ボランティアなど）	4.7%
5	農山漁村の振興関係（農作業の援助など）	8.3%
6	学術・文化・芸術・スポーツ関係（PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など）	29.7%
7	環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）	59.2%
8	災害救援関係（災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など）	28.1%
9	地域安全関係（交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など）	27.9%
10	人権擁護・平和の推進関係（家庭内暴力や差別問題解消活動など）	2.5%
11	国際交流・協力関係（通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など）	8.3%
12	男女共同参画関係（女性の自立支援活動、DV防止活動など）	1.5%
13	子どもの健全育成関係（子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など）	25.3%
14	情報化社会の発展関係（パソコン技能やIT（情報通信技術）の普及活動など）	1.1%
15	科学技術の振興関係（科学技術の普及活動など）	0.1%
16	経済活動の活性化関係（起業の支援、商店街の活性化活動など）	1.7%
17	職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係（就職支援、障害者の雇用支援活動など）	2.0%
18	消費者保護関係（消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など）	1.2%
19	ボランティアやNPO活動支援関係（ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など）	3.3%
20	その他（具体的に： （無回答）	4.0% 1.5%

これまでに経験があるボランティアやNPO活動について、「まちづくり関係」（59.6%）が最も多く、次いで「環境保全関係」（59.2%）、「保健・医療・福祉関係」（41.4%）、「学術・文化・芸術・スポーツ関係」（29.7%）などとなっている。

図表 1-(3)-1 これまでに経験があるボランティアやNPO活動

		回答数
全体	100.0	748 人
(1)	保健・医療・福祉関係(献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など)	310 人
(2)	社会教育関係(生涯学習、生きがいづくり支援活動など)	75 人
(3)	まちづくり関係(地域おこし活動、自治会・町内会の活動など)	446 人
(4)	観光の振興関係(観光ボランティアなど)	35 人
(5)	農山漁村の振興関係(農作業の援助など)	62 人
(6)	学術・文化・芸術・スポーツ関係(PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など)	222 人
(7)	環境保全関係(道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など)	443 人
(8)	災害救援関係(災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など)	210 人
(9)	地域安全関係(交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など)	209 人
(10)	人権擁護・平和の推進関係(家庭内暴力や差別問題解消活動など)	19 人
(11)	国際交流・協力関係(通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など)	62 人
(12)	男女共同参画関係(女性の自立支援活動、DV防止活動など)	11 人
(13)	子どもの健全育成関係(子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など)	189 人
(14)	情報化社会の発展関係(パソコン技能やIT(情報通信技術)の普及活動など)	8 人
(15)	科学技術の振興関係(科学技術の普及活動など)	1 人
(16)	経済活動の活性化関係(起業の支援、商店街の活性化活動など)	13 人
(17)	職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係(就職支援、障害者の雇用支援活動など)	15 人
(18)	消費者保護関係(消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など)	9 人
(19)	ボランティアやNPO活動支援関係(ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など)	25 人
(20)	その他	30 人
無回答	1.5	11 人

グラフ単位：(%)

(4) ボランティアやNPO活動をしたことがない理由

【問2で「3」と答えた方にお聞きします】

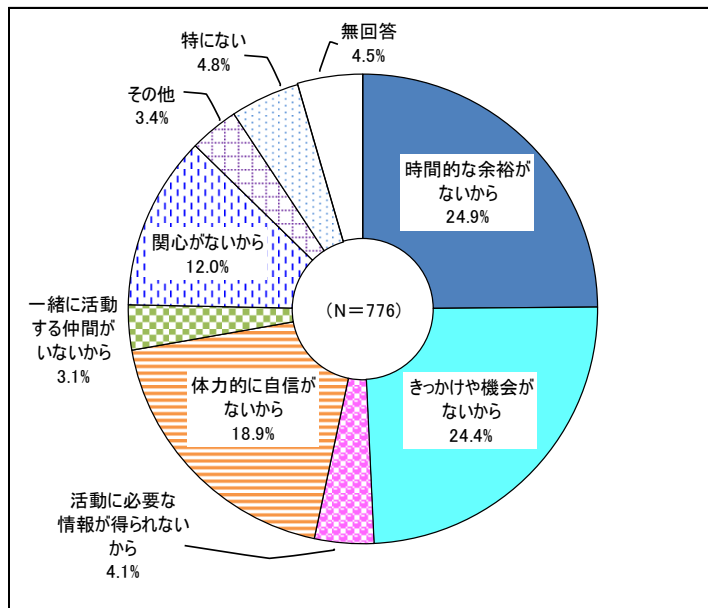
付問2 あなたがボランティアやNPO活動をしたことがない理由を、次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=776】

1	時間的な余裕がないから	24.9%
2	きっかけや機会がないから	24.4%
3	活動に必要な情報が得られないから	4.1%
4	体力的に自信がないから	18.9%
5	一緒に活動する仲間がいないから	3.1%
6	関心がないから	12.0%
7	その他（具体的に：)	3.4%
8	特にない	4.8%
	(無回答)	4.5%

ボランティアやNPO活動をしたことがない理由について、「時間的な余裕がないから」(24.9%)が最も多く、次いで「きっかけや機会がないから」(24.4%)、「体力的に自信がないから」(18.9%)、「関心がないから」(12.0%)などとなっている。

図表 1-(4)-1 ボランティアやNPO活動をしたことがない理由



(5) 今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うか

【問2で「2」または「3」と答えた方にお聞きします】

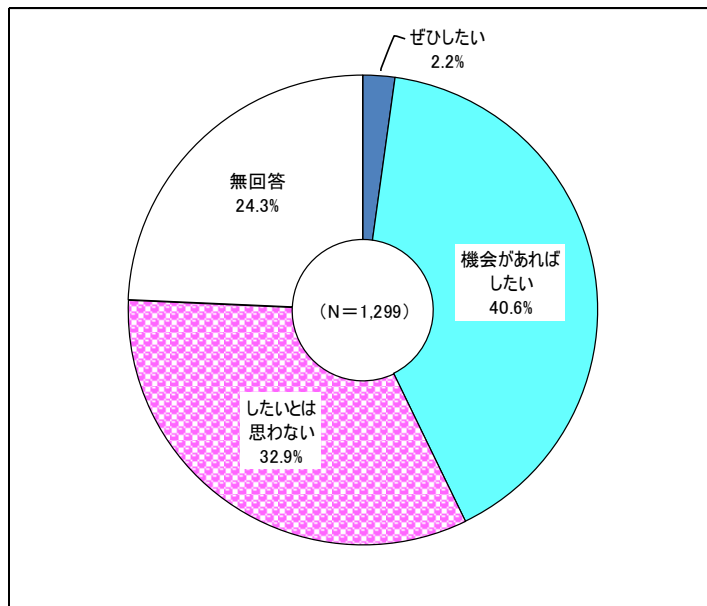
付問3 あなたは、今後ボランティアやNPO活動をしたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,299】

1 ぜひしたい	2.2%
2 機会があればしたい	40.6%
3 したいとは思わない	32.9%
(無回答)	24.3%

今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うかについて、「機会があればしたい」(40.6%)が最も多く、次いで「したいとは思わない」(32.9%)、「ぜひしたい」(2.2%)などとなっている。

図表 1-(5)-1 今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うか



(6) 今後、してみたいボランティアやNPO活動

【付問3で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問3.1 今後してみたいボランティアやNPO活動を問2付問1の1～20までの活動分野から2つまで選んで、番号を記入してください。

①ぜひしたいと回答した人の希望する活動分野【回答者数=28】

②機会があればしたいと回答した人の希望する活動分野【回答者数=527】

	①	②
1 保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）	25.0%	19.0%
2 社会教育関係（生涯学習、生きがいつくり支援活動など）	7.1%	8.5%
3 まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）	32.1%	24.7%
4 観光の振興関係（観光ボランティアなど）	10.7%	11.0%
5 農山漁村の振興関係（農作業の援助など）	17.9%	7.6%
6 学術・文化・芸術・スポーツ関係（PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など）	10.7%	11.6%
7 環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）	28.6%	28.3%
8 災害救援関係（災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など）	14.3%	17.5%
9 地域安全関係（交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など）	14.3%	7.6%
10 人権擁護・平和の推進関係（家庭内暴力や差別問題解消活動など）	0.0%	1.7%
11 国際交流・協力関係（通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など）	3.6%	4.6%
12 男女共同参画関係（女性の自立支援活動、DV防止活動など）	0.0%	2.5%
13 子どもの健全育成関係（子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など）	3.6%	12.3%
14 情報化社会の発展関係（パソコン技能やIT（情報通信技術）の普及活動など）	3.6%	2.1%
15 科学技術の振興関係（科学技術の普及活動など）	0.0%	1.1%
16 経済活動の活性化関係（起業の支援、商店街の活性化活動など）	0.0%	1.5%
17 職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係（就職支援、障害者の雇用支援活動など）	3.6%	1.5%
18 消費者保護関係（消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など）	0.0%	2.3%
19 ボランティアやNPO活動支援関係（ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など）	0.0%	1.3%
20 その他（具体的に： （無回答）	3.6%	0.2%
	3.6%	11.6%

今後ぜひしたいボランティアやNPO活動について、「まちづくり関係」(32.1%)が最も多く、次いで「環境保全関係」(28.6%)、「保健・医療・福祉関係」(25.0%)などとなっている。

また、今後機会があればしたいボランティアやNPO活動について、「環境保全関係」(28.3%)が最も多く、次いで「まちづくり関係」(24.7%)、「保健・医療・福祉関係」(19.0%)などとなっている。

図表 1-(6)-1 今後ぜひしたいボランティアやNPO活動

		回答数
全体	100.0	28 人
(1) 保健・医療・福祉関係(献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など)	25.0	7 人
(2) 社会教育関係(生涯学習、生きがいづくり支援活動など)	7.1	2 人
(3) まちづくり関係(地域おこし活動、自治会・町内会の活動など)	32.1	9 人
(4) 観光の振興関係(観光ボランティアなど)	10.7	3 人
(5) 農山漁村の振興関係(農作業の援助など)	17.9	5 人
(6) 学術・文化・芸術・スポーツ関係(PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など)	10.7	3 人
(7) 環境保全関係(道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など)	28.6	8 人
(8) 災害救援関係(災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など)	14.3	4 人
(9) 地域安全関係(交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など)	14.3	4 人
(10) 人権擁護・平和の推進関係(家庭内暴力や差別問題解消活動など)	0.0	- 人
(11) 国際交流・協力関係(通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など)	3.6	1 人
(12) 男女共同参画関係(女性の自立支援活動、DV防止活動など)	0.0	- 人
(13) 子どもの健全育成関係(子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など)	3.6	1 人
(14) 情報化社会の発展関係(パソコン技能やIT(情報通信技術)の普及活動など)	3.6	1 人
(15) 科学技術の振興関係(科学技術の普及活動など)	0.0	- 人
(16) 経済活動の活性化関係(起業の支援、商店街の活性化活動など)	0.0	- 人
(17) 職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係(就職支援、障害者の雇用支援活動など)	3.6	1 人
(18) 消費者保護関係(消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など)	0.0	- 人
(19) ボランティアやNPO活動支援関係(ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など)	0.0	- 人
(20) その他	3.6	1 人
無回答	3.6	1 人

グラフ単位：(%)

図表 1-(6)-2 今後機会があればしたいボランティアやNPO活動

		回答数
全体	100.0	527 人
(1) 保健・医療・福祉関係(献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など)	19.0	100 人
(2) 社会教育関係(生涯学習、生きがいづくり支援活動など)	8.5	45 人
(3) まちづくり関係(地域おこし活動、自治会・町内会の活動など)	24.7	130 人
(4) 観光の振興関係(観光ボランティアなど)	11.0	58 人
(5) 農山漁村の振興関係(農作業の援助など)	7.6	40 人
(6) 学術・文化・芸術・スポーツ関係(PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など)	11.6	61 人
(7) 環境保全関係(道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など)	28.3	149 人
(8) 災害救援関係(災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など)	17.5	92 人
(9) 地域安全関係(交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など)	7.6	40 人
(10) 人権擁護・平和の推進関係(家庭内暴力や差別問題解消活動など)	1.7	9 人
(11) 国際交流・協力関係(通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など)	4.6	24 人
(12) 男女共同参画関係(女性の自立支援活動、DV防止活動など)	2.5	13 人
(13) 子どもの健全育成関係(子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など)	12.3	65 人
(14) 情報化社会の発展関係(パソコン技能やIT(情報通信技術)の普及活動など)	2.1	11 人
(15) 科学技術の振興関係(科学技術の普及活動など)	1.1	6 人
(16) 経済活動の活性化関係(起業の支援、商店街の活性化活動など)	1.5	8 人
(17) 職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係(就職支援、障害者の雇用支援活動など)	1.5	8 人
(18) 消費者保護関係(消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など)	2.3	12 人
(19) ボランティアやNPO活動支援関係(ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など)	1.3	7 人
(20) その他	0.2	1 人
無回答	11.6	61 人

グラフ単位：(%)

2. 防災意識・防災対策について

(1)大地震が起こった場合の心配事

問3 あなたは、もし南海トラフ地震のような大地震が起こった場合、どのようなことが心配ですか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	建物の倒壊	67.4%
2	火災の発生	27.7%
3	電気、水道、ガスの供給停止	50.2%
4	食料や飲料水の確保	46.4%
5	津波や浸水、堤防の決壊	19.9%
6	タンスなど家具類の転倒	6.4%
7	迅速な医療の提供	15.1%
8	土砂崩れ、崖崩れ、地割れ	15.9%
9	電話などの通信機能の不通	13.6%
10	道路の混雑や不通	6.2%
11	治安の混乱	6.9%
12	日用品の確保	10.0%
13	電車、バスなどの公共交通機関の混雑や不通	1.2%
14	心配だと思わない	0.8%
15	その他（具体的に：)	3.0%
	（無回答）	1.0%

大地震が起こった場合の心配事について、「建物の倒壊」（67.4%）が最も多く、次いで「電気、水道、ガスの供給停止」（50.2%）、「食料や飲料水の確保」（46.4%）、「火災の発生」（27.7%）などとなっている。

図表 2-(1)-1 大地震が起こった場合の心配事

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 建物の倒壊	67.4	1,062 人
(2) 火災の発生	27.7	436 人
(3) 電気、水道、ガスの供給停止	50.2	791 人
(4) 食料や飲料水の確保	46.4	731 人
(5) 津波や浸水、堤防の決壊	19.9	314 人
(6) タンスなど家具類の転倒	6.4	101 人
(7) 迅速な医療の提供	15.1	238 人
(8) 土砂崩れ、崖崩れ、地割れ	15.9	250 人
(9) 電話などの通信機能の不通	13.6	214 人
(10) 道路の混雑や不通	6.2	98 人
(11) 治安の混乱	6.9	109 人
(12) 日用品の確保	10.0	158 人
(13) 電車、バスなどの公共交通機関の混雑や不通	1.2	19 人
(14) 心配だと思わない	0.8	13 人
(15) その他	3.0	47 人
無回答	1.0	16 人

グラフ単位：(%)

(2) 南海トラフ地震に備えて現在取り組んでいる対策

問4 あなたは、南海トラフ地震に備えて、どのような対策をとっていますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=1,576】

1	携帯ラジオや懐中電灯を準備している	65.9%
2	近くの学校や公園など避難場所を決めている	41.2%
3	貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている	20.9%
4	風呂などに水をためおきするようになっている	16.1%
5	食料や飲料水を備蓄している ⇒付問1にお進みください	27.4%
6	消火器や消火用のバケツを準備している	14.3%
7	家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止している	12.2%
8	自分の家の耐震性を強化している	7.4%
9	家族や親類などと非常時の連絡方法を決めている	12.8%
10	防災訓練に積極的に参加している	14.1%
11	特に何もしていない	25.8%
12	その他（具体的に：)	1.5%
	(無回答)	1.8%

南海トラフ地震に備えて現在取り組んでいる対策について、「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」(65.9%)が最も多く、次いで「近くの学校や公園など避難場所を決めている」(41.2%)、「食料や飲料水を備蓄している」(27.4%)などとなっている。

図表 2-(2)-1 南海トラフ地震に備えて現在取り組んでいる対策

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 携帯ラジオや懐中電灯を準備している	65.9	1,039 人
(2) 近くの学校や公園など避難場所を決めている	41.2	650 人
(3) 貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている	20.9	329 人
(4) 風呂などに水をためおきするようになっている	16.1	254 人
(5) 食料や飲料水を備蓄している	27.4	432 人
(6) 消火器や消火用のバケツを準備している	14.3	226 人
(7) 家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止している	12.2	192 人
(8) 自分の家の耐震性を強化している	7.4	117 人
(9) 家族や親類などと非常時の連絡方法を決めている	12.8	202 人
(10) 防災訓練に積極的に参加している	14.1	223 人
(11) 特に何もしていない	25.8	406 人
(12) その他	1.5	23 人
無回答	1.8	28 人

グラフ単位：(%)

(3)ライフラインが途絶した場合に備えた備蓄量

【問4で「5」と答えた方にお聞きします】

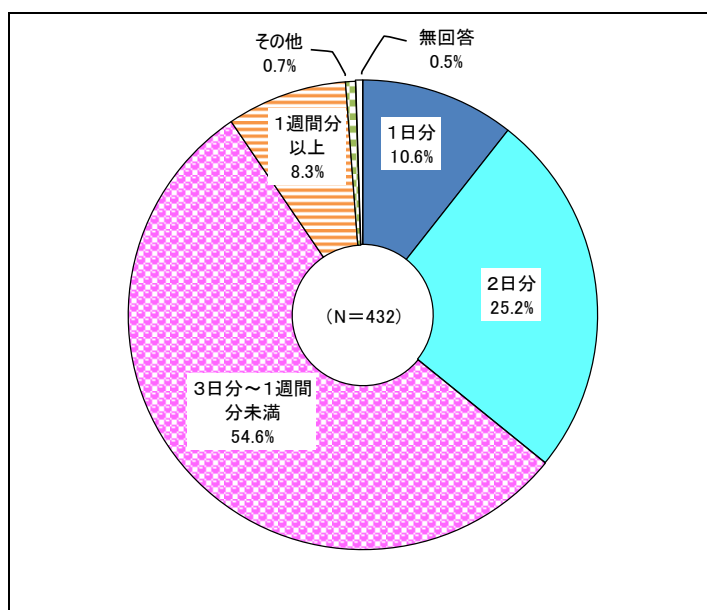
付問1 地震により交通手段、電気、水道などライフラインが途絶した場合に備えて、食料、飲料水などを何日分備蓄していますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=432】

1	1日分	10.6%
2	2日分	25.2%
3	3日分～1週間分未満	54.6%
4	1週間分以上	8.3%
5	その他（理由： （無回答）	0.7% 0.5%

ライフラインが途絶した場合に備えた備蓄量について、「3日分～1週間分未満」（54.6%）が最も多く、次いで「2日分」（25.2%）、「1日分」（10.6%）、「1週間分以上」（8.3%）などとなっている。

図表 2-(3)-1 ライフラインが途絶した場合に備えた備蓄量



(4)南海トラフ地震に備えて今後取り組みたい対策

問5 あなたは、南海トラフ地震に備えて、今度どのような対策をとろうと考えていますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=1,576】

1 携帯ラジオや懐中電灯を準備する	44.6%
2 近くの学校や公園など避難場所を決める	32.7%
3 貴重品などをすぐ持ち出せるようにする	51.6%
4 風呂などに水をためおきするようにする	14.3%
5 食料や飲料水を備蓄準備する	52.6%
6 消火器や消火用のバケツを準備する	14.4%
7 家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止する	29.3%
8 自分の家の耐震性を強化する	12.4%
9 家族や親類などと非常時の連絡方法を決める	42.4%
10 防災訓練に積極的に参加する	21.7%
11 特に何もしない	8.1%
12 その他（具体的に：)	1.5%
(無回答)	3.2%

南海トラフ地震に備えて今後取り組みたい対策について、「食料や飲料水を備蓄準備する」(52.6%)が最も多く、次いで「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする」(51.6%)、「携帯ラジオや懐中電灯を準備する」(44.6%)、「家族や親族などと非常時の連絡方法を決める」(42.4%)などとなっている。

図表 2-(4)-1 南海トラフ地震に備えて今後取り組みたい対策

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 携帯ラジオや懐中電灯を準備する	44.6	703 人
(2) 近くの学校や公園など避難場所を決める	32.7	516 人
(3) 貴重品などをすぐ持ち出せるようにする	51.6	813 人
(4) 風呂などに水をためおきするようになる	14.3	225 人
(5) 食料や飲料水を備蓄準備する	52.6	829 人
(6) 消火器や消火用のバケツを準備する	14.4	227 人
(7) 家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止する	29.3	461 人
(8) 自分の家の耐震性を強化する	12.4	195 人
(9) 家族や親類などと非常時の連絡方法を決める	42.4	668 人
(10) 防災訓練に積極的に参加する	21.7	342 人
(11) 特に何もしない	8.1	128 人
(12) その他	1.5	24 人
無回答	3.2	51 人

グラフ単位：(%)

(5) 自主防災組織への加入の有無

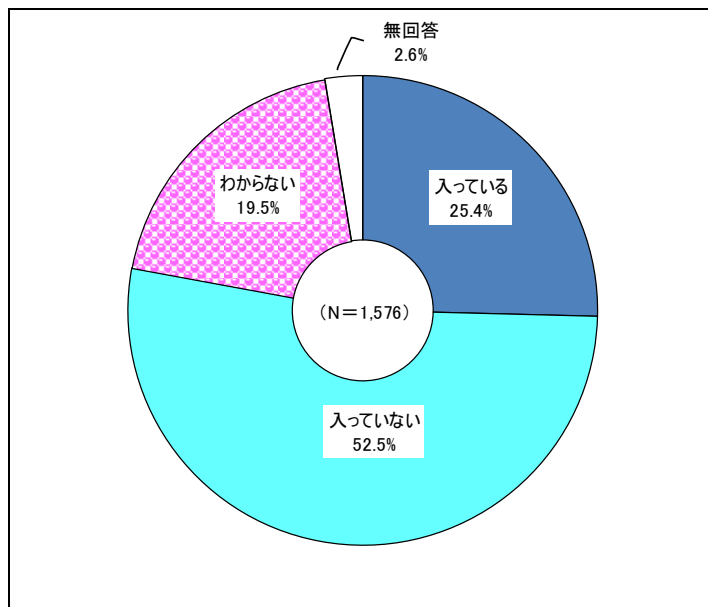
問6 災害から住民を守るため、消防団とは別に、自治会などを単位として、初期消火、避難誘導、被災者の救出・救護などの自主的な防災活動を行う組織を自主防災組織（自主防災会）といいます。あなたは、その自主防災組織に入っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1 入っている	25.4%
2 入っていない ⇒付問1にお進みください	52.5%
3 わからない	19.5%
(無回答)	2.6%

自主防災組織への加入の有無について、「入っていない」が52.5%、「入っている」が25.4%、「わからない」が19.5%となっている。

図表 2-(5)-1 自主防災組織への加入の有無



(6) 自主防災組織に入っていない理由

【問6で「2」と答えた方にお聞きします】

付問1 自主防災組織に入っていない理由は何ですか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=827】

1 地域に自主防災組織がない	33.9%
2 活動内容がわからない	33.6%
3 時間がない	22.4%
4 自主防災組織は地震発生時に役に立たない	3.4%
5 地域の活動に関心がない	6.5%
6 自主防災組織が何か知らない	26.2%
7 その他（具体的に： （無回答）	13.3% 2.4%

自主防災組織に入っていない理由について、「地域に自主防災組織がない」（33.9%）が最も多く、次いで「活動内容がわからない」（33.6%）、「自主防災組織が何か知らない」（26.2%）、「時間がない」（22.4%）などとなっている。

図表 2-(6)-1 自主防災組織に入っていない理由

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	827 人
(1) 地域に自主防災組織がない	33.9	280 人
(2) 活動内容がわからない	33.6	278 人
(3) 時間がない	22.4	185 人
(4) 自主防災組織は地震発生時に役に立たない	3.4	28 人
(5) 地域の活動に関心がない	6.5	54 人
(6) 自主防災組織が何か知らない	26.2	217 人
(7) その他	13.3	110 人
無回答	2.4	20 人

グラフ単位：(%)

(7) 南海トラフ地震対策として特に力を入れてほしい対策

問7 県に対して、南海トラフ地震対策として特に力を入れてほしい対策はどのようなことですか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	食料、飲料水、医薬品等の備蓄	70.9%
2	地震に関する県防災計画の充実	21.1%
3	災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供	64.5%
4	近県との広域応援体制の確立	14.1%
5	道路、堤防やため池などのハード整備	28.5%
6	市町が整備する防災資機材や防火水槽への助成	7.8%
7	自主防災組織の結成についての市町への支援	10.3%
8	防災訓練の実施	8.6%
9	災害時の心得や地震に関する知識の普及啓発	18.6%
10	学校での防災教育	9.0%
11	ボランティア活動の支援体制の確立	8.3%
12	その他（具体的に：)	1.7%
13	特にない	2.3%
	(無回答)	3.4%

南海トラフ地震対策として特に力を入れてほしい対策について、「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」(70.9%)が最も多く、次いで「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」(64.5%)、「道路、堤防やため池などのハード整備」(28.5%)、「地震に関する県防災計画の充実」(21.1%)などとなっている。

図表 2-(7)-1 南海トラフ地震対策として特に力を入れてほしい対策

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 食料、飲料水、医薬品等の備蓄	70.9	1,118 人
(2) 地震に関する県防災計画の充実	21.1	333 人
(3) 災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供	64.5	1,016 人
(4) 近県との広域応援体制の確立	14.1	222 人
(5) 道路、堤防やため池などのハード整備	28.5	449 人
(6) 市町が整備する防災資機材や防火水槽への助成	7.8	123 人
(7) 自主防災組織の結成についての市町への支援	10.3	162 人
(8) 防災訓練の実施	8.6	135 人
(9) 災害時の心得や地震に関する知識の普及啓発	18.6	293 人
(10) 学校での防災教育	9.0	142 人
(11) ボランティア活動の支援体制の確立	8.3	131 人
(12) その他	1.7	27 人
(13) 特にない	2.3	37 人
無回答	3.4	53 人

グラフ単位：(%)

(8)地震以外の自然災害の中で特に力を入れてほしい対策

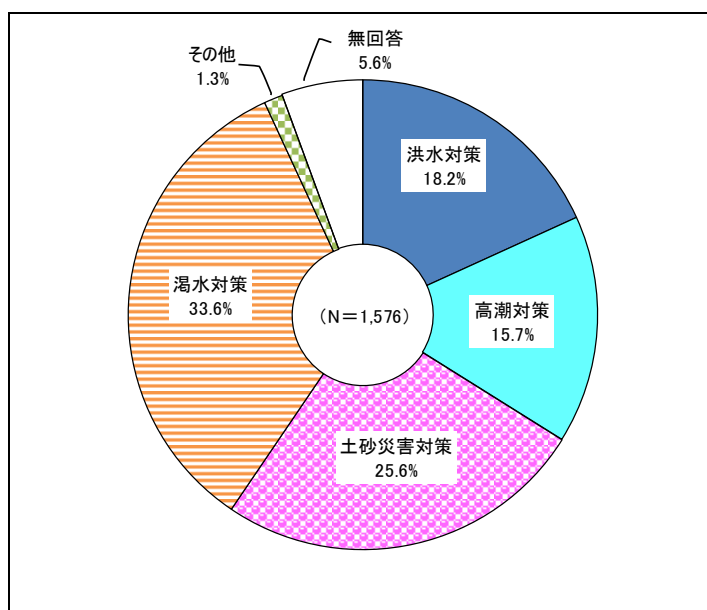
問8 県に対して、地震以外の自然災害の中で特に力を入れてほしい対策は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1 洪水対策	18.2%
2 高潮対策	15.7%
3 土砂災害対策	25.6%
4 渇水対策	33.6%
5 その他（ （無回答）	1.3% 5.6%

地震以外の自然災害の中で特に力を入れてほしい対策について、「渇水対策」(33.6%)が最も多く、次いで「土砂災害対策」(25.6%)、「洪水対策」(18.2%)、「高潮対策」(15.7%)などとなっている。

図表 2-(8)-1 地震以外の自然災害の中で特に力を入れてほしい対策



(9)ソフト対策として県に特に力を入れてほしい取り組み

問9 土砂災害は、昨年8月に広島市で発生した大規模なものをはじめ、多くの尊い人命を失ってきました。県は、土砂災害から県民の皆様の人命や財産を守るため、土砂災害に対する危険箇所において、砂防ダムなどの施設整備（ハード対策）を行っています。一方で、危険箇所を住民の皆様にも周知するため、警戒区域の指定など、ソフト対策も併せて行うこととしています。そこで、ソフト対策として県に特に力を入れて欲しいものを、次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等の指定	67.2%
2	住民参画によるハザードマップ作成など実効性の高い警戒避難体制の構築	48.8%
3	大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の強化	47.3%
4	砂防ボランティアや、防災士等の有資格者等の養成	11.1%
5	児童・生徒への、土砂災害に関する学習機会の提供	23.1%
6	住民を対象にした土砂災害に関する講習会の開催	20.7%
7	住民参加型の土砂災害に関する避難訓練の実施	15.7%
8	土砂災害防止月間等を活用した啓発活動や、マスコミ等と連携した広報活動	10.7%
	(無回答)	7.6%

ソフト対策として県に特に力を入れてほしい取り組みについて、「土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等の指定」(67.2%)が最も多く、次いで「住民参画によるハザードマップ作成など実効性の高い警戒避難体制の構築」(48.8%)、「大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の強化」(47.3%)、「児童・生徒への、土砂災害に関する学習機会の提供」(23.1%)などとなっている。

図表 2-(9)-1 ソフト対策として県に特に力を入れてほしい取り組み

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 土砂災害の危険箇所を周知する『土砂災害警戒区域』等の指定	67.2	1,059 人
(2) 住民参加によるハザードマップ作成など実効性の高い警戒避難体制の構築	48.8	769 人
(3) 大規模土砂災害発生時のための、緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)の活用や土木建設業者との連携などによる危機管理体制の強化	47.3	745 人
(4) 砂防ボランティアや、防災士等の有資格者等の養成	11.1	175 人
(5) 児童・生徒への、土砂災害に関する学習機会の提供	23.1	364 人
(6) 住民を対象にした土砂災害に関する講習会の開催	20.7	326 人
(7) 住民参加型の土砂災害に関する避難訓練の実施	15.7	247 人
(8) 土砂災害防止月間等を活用した啓発活動や、マスコミ等と連携した広報活動	10.7	168 人
無回答	7.6	119 人

グラフ単位：(%)

3. 食習慣・生活習慣について

(1) 健康や食生活をよりよくすることをふだんから意識している人の状況

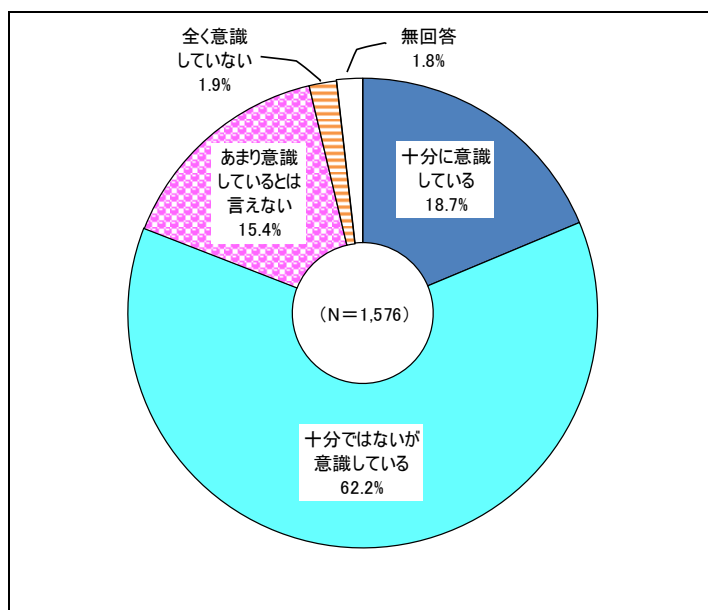
問10 あなたの健康や食生活についてよりよくすることをふだんから意識していますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1 十分に意識している	18.7%
2 十分ではないが意識している	62.2%
3 あまり意識しているとは言えない	15.4%
4 全く意識していない	1.9%
(無回答)	1.8%

健康や食生活をよりよくすることをふだんから意識している人の状況について、「十分ではないが意識している」(62.2%)が最も多く、次いで「十分に意識している」(18.7%)、「あまり意識しているとは言えない」(15.4%)、「全く意識していない」(1.9%)などとなっている。

図表 3-(1)-1 健康や食生活をよりよくすることをふだんから意識している人の状況



(2) 1日に1回以上、家族と一緒に食事をする頻度

問11 1日に1回以上、家族と一緒に食事をすることがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

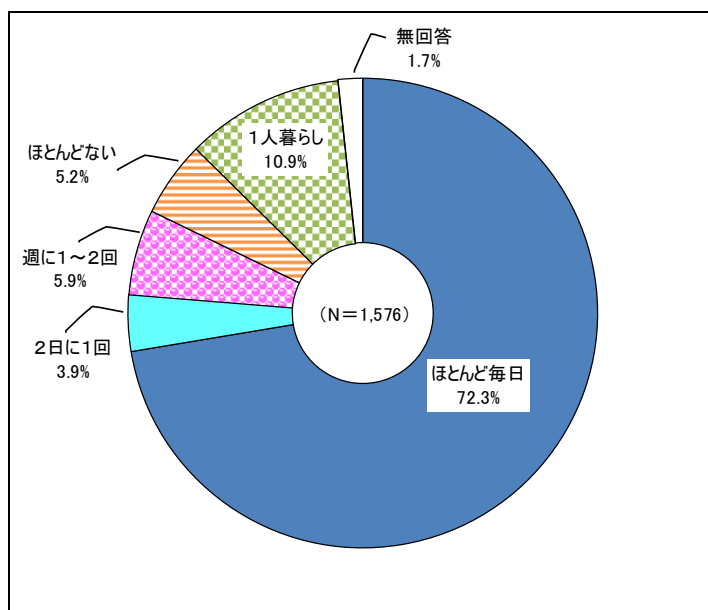
【回答者数=1,576】

1	ほとんど毎日	72.3%
2	2日に1回	3.9%
3	週に1～2回	5.9%
4	ほとんどない	5.2%
5	1人暮らし	10.9%
	(無回答)	1.7%

1日に1回以上、家族と一緒に食事をする頻度について、「ほとんど毎日」(72.3%)が最も多く、次いで「週に1～2回」(5.9%)、「ほとんどない」(5.2%)などとなっている。

「1人暮らし」と答えた人は10.9%である。

図表 3-(2)-1 1日に1回以上、家族と一緒に食事をする頻度



(3) 食事で主食、主菜、副菜の3種類をそろえて食べるようにしている人の状況

問12 食事で主食、主菜、副菜の3種類をそろえて食べるようにしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

【主食】：ごはん、パン、うどんなど 【主菜】：肉、魚、卵、大豆料理など

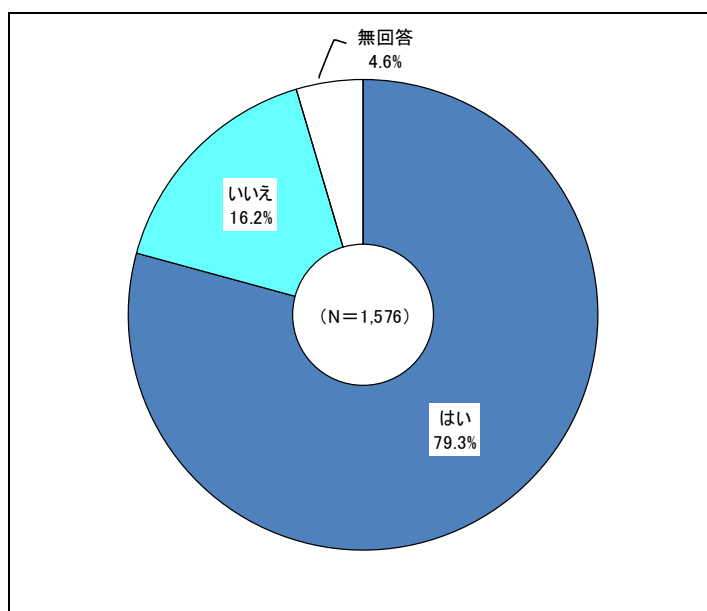
【副菜】：野菜、きのこ、いも、海藻料理など

【回答者数=1,576】

1 はい	79.3%
2 いいえ	16.2%
(無回答)	4.6%

食事で主食、主菜、副菜の3種類をそろえて食べるようにしている人の状況について、「はい」(79.3%)、「いいえ」(16.2%)、などとなっている。

図表 3-(3)-1 食事で主食、主菜、副菜の3種類をそろえて食べるようにしている人の状況



(4)うどんを食べるときは副食をいっしょにとるようにしている人の状況

問13 うどんを食べるときは副食をいっしょにとるようにしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

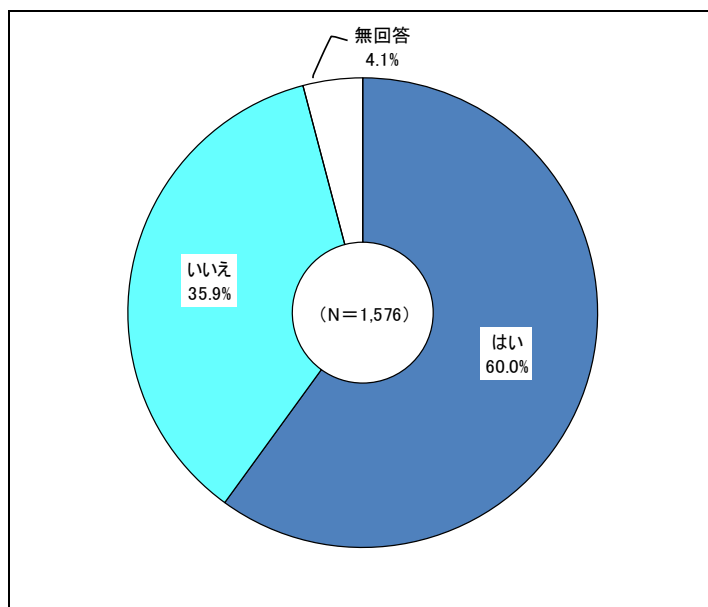
【副食】：おかず ※寿司やおにぎりなどのご飯類、パン類は除く

【回答者数=1,576】

1 はい	60.0%
2 いいえ	35.9%
(無回答)	4.1%

うどんを食べるときは副食をいっしょにとるようにしている人の状況について、「はい」(60.0%)、「いいえ」(35.9%) などとなっている。

図表 3-(4)-1 うどんを食べるときは副食をいっしょにとるようにしている人の状況



(5) 朝食の摂取頻度

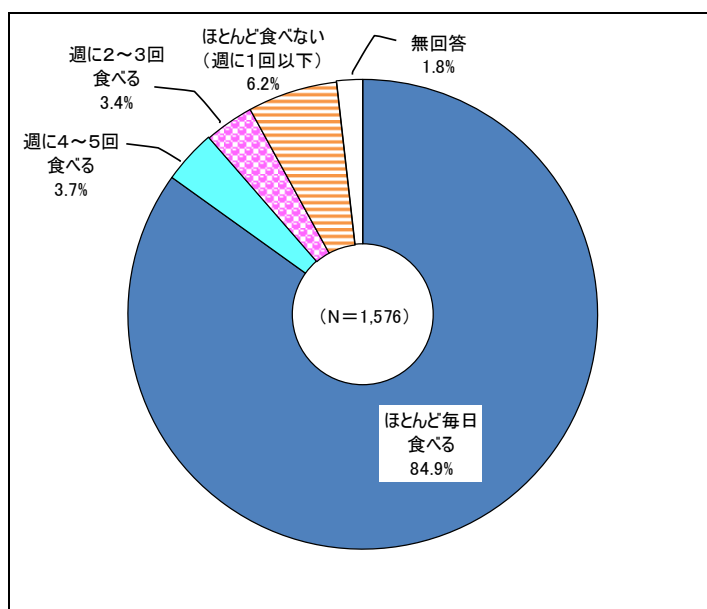
問14 朝食をどの程度食べますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1	ほとんど毎日食べる	84.9%
2	週に4～5回食べる	3.7%
3	週に2～3回食べる	3.4%
4	ほとんど食べない（週に1回以下）	6.2%
	（無回答）	1.8%

朝食の摂取頻度について、「ほとんど毎日食べる」（84.9%）が最も多く、次いで「ほとんど食べない（週に1回以下）」（6.2%）、「週に4～5回食べる」（3.7%）、「週に2～3回食べる」（3.4%）などとなっている。

図表 3-(5)-1 朝食の摂取頻度



(6) 身長・体重

問15 差し支えなければ、あなたの身長・体重をご記入ください。

【回答者数=1,576】

身長

(無回答)

8.4%

体重

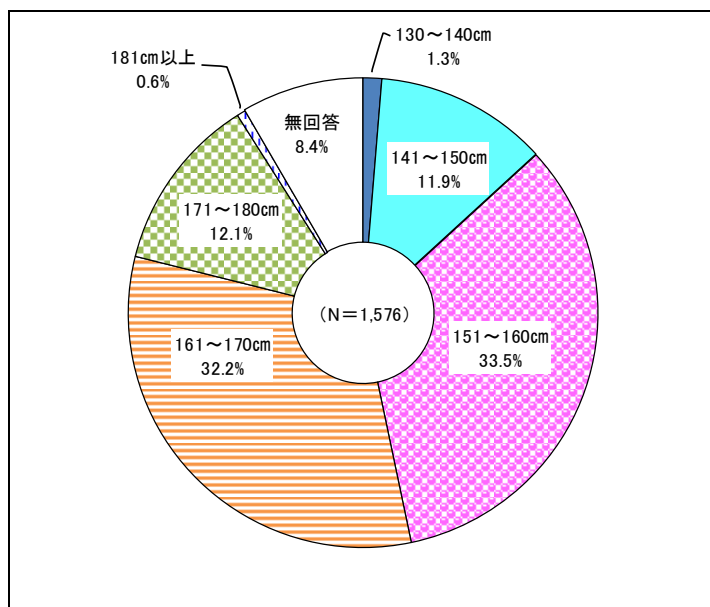
(無回答)

9.8%

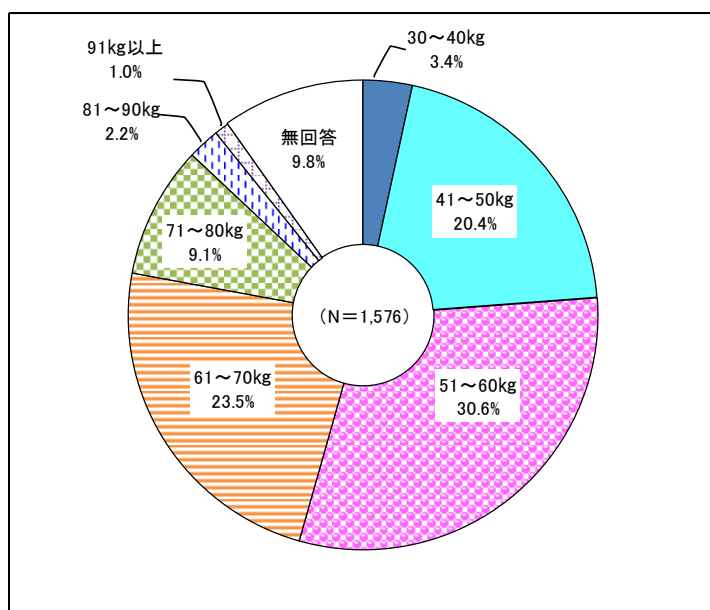
身長について、平均は (160.9 cm) となっている。

体重について、平均は (58.9 kg) となっている。

図表 3-(6)-1 身長



図表 3-(6)-2 体重



4. 地域医療の充実について

(1) 自分の最期を迎えたい場所

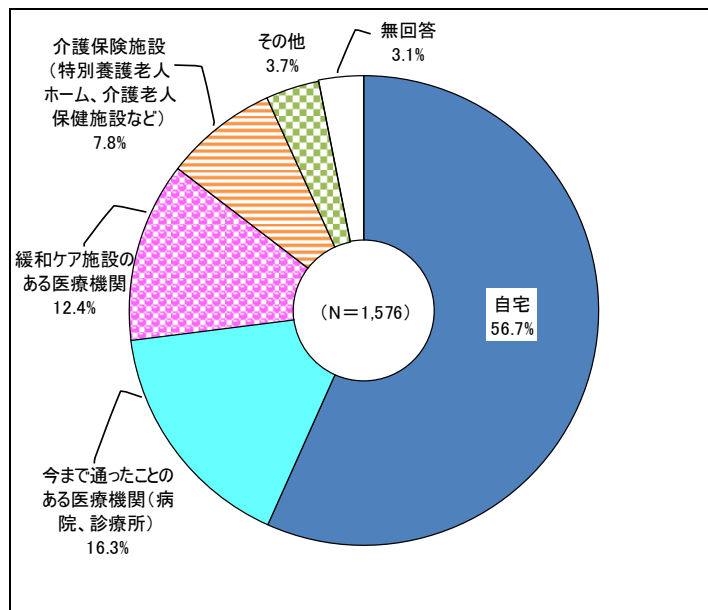
問16 あなたは、ご自分の最期をどこで迎えたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

- | | | |
|--------------------------------|--------------|--------------|
| 1 自宅 | ⇒問17にお進みください | 56.7% |
| 2 今まで通ったことのある医療機関（病院、診療所） | | 16.3% |
| 3 緩和ケア施設のある医療機関 | | 12.4% |
| 4 介護保険施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など） | | 7.8% |
| 5 その他（具体的に：
（無回答） | | 3.7%
3.1% |
- 3、4、5を選んだ方は、問18にお進みください

自分の最期を迎えたい場所について、「自宅」（56.7%）が最も多く、次いで「今まで通ったことのある医療機関（病院、診療所）」（16.3%）、「緩和ケア施設のある医療機関」（12.4%）、「介護保険施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など）」（7.8%）などとなっている。

図表 4-(1)-1 自分の最期を迎えたい場所



(2) 自宅で最期を迎えたい理由

【問16で「1 自宅」と答えた方にお聞きします】

問17 なぜ、自宅で最期を迎えたいと思いますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=893】

1 住み慣れた場所で暮らしたいから	73.3%
2 自分の好きなことをしながら暮らしたいから	65.5%
3 家族との時間を多く過ごしたいから	55.2%
4 病院や施設で過ごすのは経済的に負担が大きいから	33.9%
5 病院や施設に入れるか分からないから	17.6%
6 家族や知人が自宅で療養しているから	1.6%
7 その他（具体的に： （無回答）	2.1% 0.2%

自宅で最期を迎えたい理由について、「住み慣れた場所で暮らしたいから」（73.3%）が最も多く、次いで「自分の好きなことをしながら暮らしたいから」（65.5%）、「家族との時間を多く過ごしたいから」（55.2%）、「病院や施設で過ごすのは経済的に負担が大きいから」（33.9%）などとなっている。

図表 4-(2)-1 自宅で最期を迎えたい理由

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	893 人
(1) 住み慣れた場所で暮らしたいから	73.3	655 人
(2) 自分の好きなことをしながら暮らしたいから	65.5	585 人
(3) 家族との時間を多く過ごしたいから	55.2	493 人
(4) 病院や施設で過ごすのは経済的に負担が大きいから	33.9	303 人
(5) 病院や施設に入れるか分からないから	17.6	157 人
(6) 家族や知人が自宅で療養しているから	1.6	14 人
(7) その他	2.1	19 人
無回答	0.2	2 人

グラフ単位：(%)

(3) 自宅以外で最期を迎えたい理由

【問16で「1 自宅」以外と答えた方にお聞きします】

問18 なぜ、自宅以外の所で最期を迎えたいと思いますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=634】

1 自宅では家族の介護などの負担が大きいため	69.1%
2 介護をしてくれる家族がないから	23.8%
3 自宅で過ごすには、経済的に負担が大きいため	13.7%
4 自宅では緊急時の対応が心配だから	45.3%
5 往診や訪問看護、介護の体制が不十分だから	19.7%
6 自宅での療養について家族が希望していないから	4.9%
7 それまでかかっていた病院や施設のもとで暮らしたいから	5.2%
8 医師や看護師の訪問が精神的な負担になるから	4.4%
9 その他（具体的に： ）	8.8%
（無回答）	5.4%

自宅以外で最期を迎えたい理由について、「自宅では家族の介護などの負担が大きいため」(69.1%)が最も多く、次いで「自宅では緊急時の対応が心配だから」(45.3%)、「介護をしてくれる家族がないから」(23.8%)、「往診や訪問看護、介護の体制が不十分だから」(19.7%)などとなっている。

図表 4-(3)-1 自宅以外で最期を迎えたい理由

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	634 人
(1) 自宅では家族の介護などの負担が大きいため	69.1	438 人
(2) 介護をしてくれる家族がないから	23.8	151 人
(3) 自宅で過ごすには、経済的に負担が大きいため	13.7	87 人
(4) 自宅では緊急時の対応が心配だから	45.3	287 人
(5) 往診や訪問看護、介護の体制が不十分だから	19.7	125 人
(6) 自宅での療養について家族が希望していないから	4.9	31 人
(7) それまでかかっていた病院や施設のもとで暮らしたいから	5.2	33 人
(8) 医師や看護師の訪問が精神的な負担になるから	4.4	28 人
(9) その他	8.8	56 人
無回答	5.4	34 人

グラフ単位：(%)

(4)「かかりつけ医」の有無

【全員の方にお聞きします】

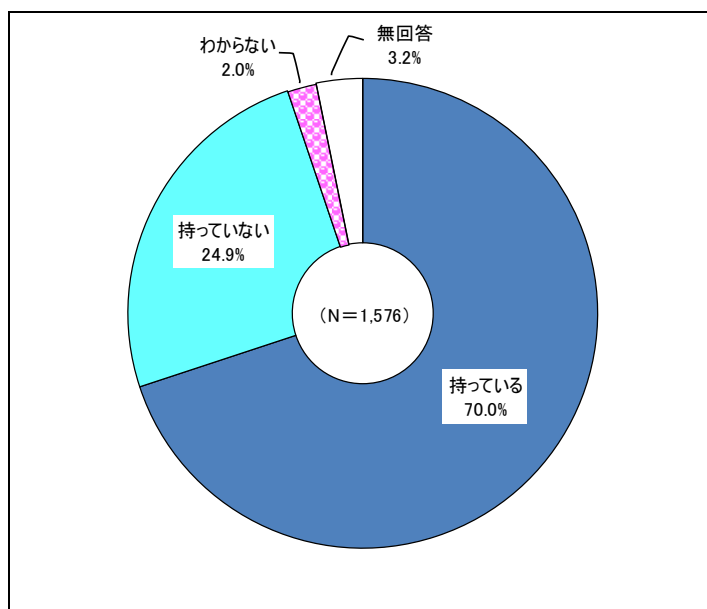
問19 あなたは、日ごろから病気やけがの時に診察を受けることを決めている「かかりつけ医」を持っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1 持っている	⇒問20にお進みください	70.0%
2 持っていない	⇒問21にお進みください	24.9%
3 わからない		2.0%
(無回答)		3.2%

「かかりつけ医」の有無について、「持っている」(70.0%)、「持っていない」(24.9%)、「わからない」(2.0%) などとなっている。

図表 4-(4)-1 「かかりつけ医」の有無



(5)「かかりつけ医」の所属施設

【問19で「1 持っている」と答えた方にお聞きします】

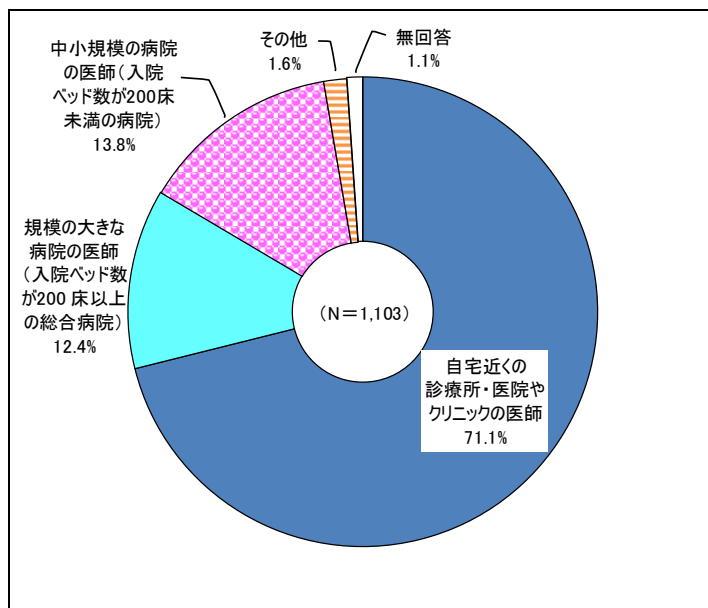
問20 あなたのかかりつけ医は、どのような施設の医師ですか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,103】

1 自宅近くの診療所・医院やクリニックの医師	71.1%
2 規模の大きな病院の医師（入院ベッド数が200床以上の総合病院）	12.4%
3 中小規模の病院の医師（入院ベッド数が200床未満の病院）	13.8%
4 その他（具体的に：)	1.6%
（無回答）	1.1%

「かかりつけ医」の所属施設について、「自宅近くの診療所・医院やクリニックの医師」(71.1%)が最も多く、次いで「中小規模の病院の医師（入院ベッド数が200床未満の病院）」(13.8%)、「規模の大きな病院の医師（入院ベッド数が200床以上の総合病院）」(12.4%) などとなっている。

図表 4-(5)-1 「かかりつけ医」の所属施設



(6)「かかりつけ医」を持っていない理由

【問19で「2 持っていない」と答えた方にお聞きします】

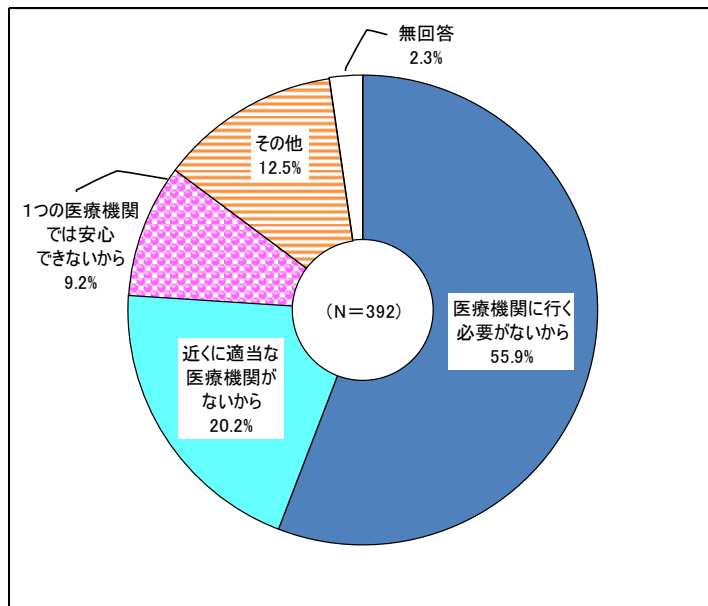
問21 「かかりつけ医」を持っていない理由は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=392】

1 医療機関に行く必要がないから	55.9%
2 近くに適切な医療機関がないから	20.2%
3 1つの医療機関では安心できないから	9.2%
4 その他（具体的に：)	12.5%
(無回答)	2.3%

「かかりつけ医」を持っていない理由について、「医療機関に行く必要がないから」(55.9%)が最も多く、次いで「近くに適切な医療機関がないから」(20.2%)、「その他」(12.5%)、「1つの医療機関では安心できないから」(9.2%)などとなっている。

図表 4-(6)-1 「かかりつけ医」を持っていない理由



(7) 地域包括ケアシステムの構築の推進にあたり、特に重要だと思うこと

【全員の方にお聞きします】

問22 国では、疾病を抱えても、自宅等の住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい生活を継続することができるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進していますが、あなたが特に重要だと思うものは何ですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1 家族や親族の理解と協力があること	69.6%
2 友人・知人の理解と協力があること	7.6%
3 地元の自治会の理解と協力があること	9.7%
4 自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること	50.6%
5 規模の大きな病院（入院ベッド数が200床以上の総合病院）が充実していること	15.7%
6 中小規模の病院（入院ベッド数が200床未満の病院）が充実していること	12.4%
7 自宅近くの歯科診療所が充実していること	3.7%
8 自宅近くの薬局が充実していること	2.9%
9 介護保険施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など）が充実していること	25.0%
10 自宅近くの介護支援事業所（ケアマネージャーなど）が充実していること	18.3%
11 自宅近くの訪問看護事業所（訪問看護師など）が充実していること	22.6%
12 行政（地域包括支援センターなど）の支援があること	26.9%
13 その他（具体的に：)	1.6%
（無回答）	4.3%

地域包括ケアシステムの構築の推進にあたり、特に重要だと思うことについて、「家族や親族の理解と協力があること」（69.6%）が最も多く、次いで「自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること」（50.6%）、「行政（地域包括支援センターなど）の支援があること」（26.9%）、「介護保険施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など）が充実していること」（25.0%）などとなっている。

図表 4-(7)-1 地域包括ケアシステムの構築の推進にあたり、特に重要だと思うこと

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 家族や親族の理解と協力があること	69.6	1,097 人
(2) 友人・知人の理解と協力があること	7.6	119 人
(3) 地元の自治会の理解と協力があること	9.7	153 人
(4) 自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること	50.6	798 人
(5) 規模の大きな病院(入院ベッド数が200床以上の総合病院)が充実していること	15.7	247 人
(6) 中小規模の病院(入院ベッド数が200床未満の病院)が充実していること	12.4	196 人
(7) 自宅近くの歯科診療所が充実していること	3.7	59 人
(8) 自宅近くの薬局が充実していること	2.9	45 人
(9) 介護保険施設(特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など)が充実していること	25.0	394 人
(10) 自宅近くの介護支援事業所(ケアマネージャーなど)が充実していること	18.3	289 人
(11) 自宅近くの訪問看護事業所(訪問看護師など)が充実していること	22.6	356 人
(12) 行政(地域包括支援センターなど)の支援があること	26.9	424 人
(13) その他	1.6	25 人
無回答	4.3	67 人

グラフ単位：(%)

(8) 今後の香川の在宅医療の充実を図るために、特に力を入れてほしいと思うこと

問23 今後の香川の在宅医療の充実を図るために、あなたが特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1 在宅療養を続けていくための経済的負担が大きくなること	77.3%
2 本人や家族などが在宅医療・地域包括ケアについて正しく理解できるような広報・啓発活動	19.4%
3 医師や看護師などの在宅医療従事者の育成・確保	39.7%
4 ケアマネージャーやヘルパーなど介護サービス従事者の育成・確保	28.6%
5 医師による往診の体制が確立されていること	34.2%
6 訪問看護の体制が充実していること	28.9%
7 容態が急変した時の体制が確保されていること	40.9%
8 その他（具体的に：)	1.3%
（無回答）	4.1%

今後の香川の在宅医療の充実を図るために、特に力を入れてほしいと思うことについて、「在宅療養を続けていくための経済的負担が大きくなること」(77.3%)が最も多く、次いで「容態が急変した時の体制が確保されていること」(40.9%)、「医師や看護師などの在宅医療従事者の育成・確保」(39.7%)、「医師による往診の体制が確立されていること」(34.2%)などとなっている。

図表 4-(8)-1 今後の香川の在宅医療の充実を図るために、特に力を入れてほしいと思うこと

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 在宅療養を続けていくための経済的負担が大き ならないこと	77.3	1,218 人
(2) 本人や家族などが在宅医療・地域包括ケアにつ いて正しく理解できるような広報・啓発活動	19.4	306 人
(3) 医師や看護師などの在宅医療従事者の育成・確 保	39.7	626 人
(4) ケアマネージャーやヘルパーなど介護サービ ス従事者の育成・確保	28.6	450 人
(5) 医師による往診の体制が確立されていること	34.2	539 人
(6) 訪問看護の体制が充実していること	28.9	455 人
(7) 容態が急変した時の体制が確保されていること	40.9	644 人
(8) その他	1.3	20 人
無回答	4.1	65 人

グラフ単位：(%)

5-A. 子どもの教育(学校)について

(1) 幼児期・小学校・中学校・高等学校の教育の現状

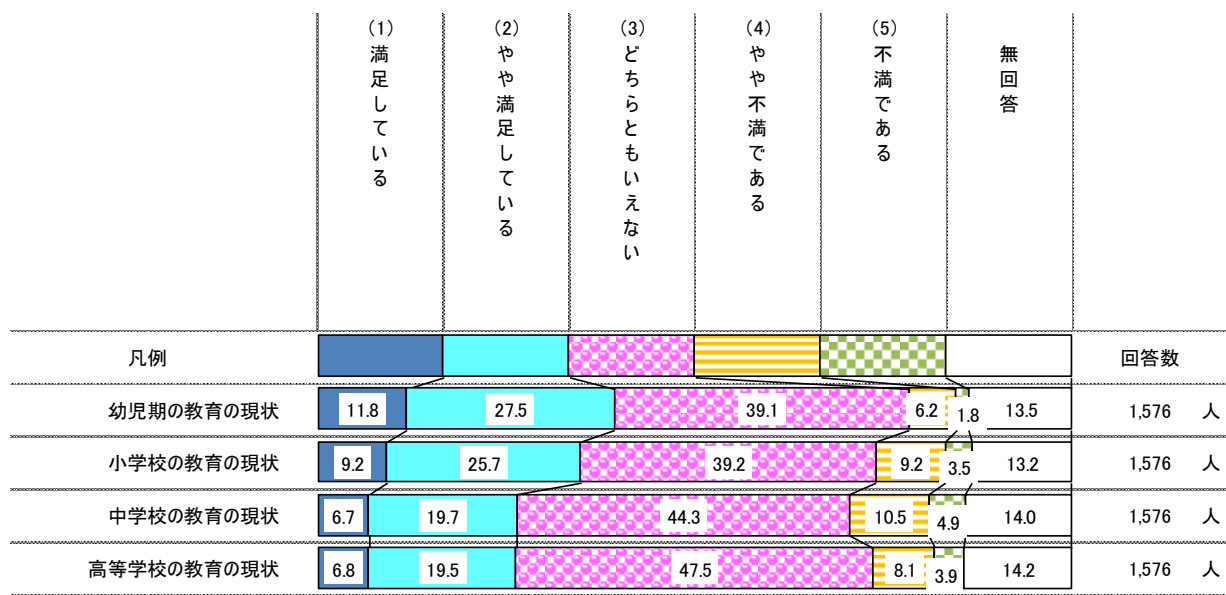
問24 幼児期の教育、小学校の教育、中学校の教育、高等学校の教育の現状についてどう思いますか。それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

項目	満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	無回答
幼児期の教育の現状	11.8	27.5	39.1	6.2	1.8	13.5
小学校の教育の現状	9.2	25.7	39.2	9.2	3.5	13.2
中学校の教育の現状	6.7	19.7	44.3	10.5	4.9	14.0
高等学校の教育の現状	6.8	19.5	47.5	8.1	3.9	14.2

幼児期・小学校・中学校・高等学校の教育の現状について、「満足している」+「やや満足している」を合わせた『満足している』は「幼児期の現状」(39.3%)が最も多くなっている。

図表 5-A-(1)-1 幼児期・小学校・中学校・高等学校の教育の現状



グラフ単位:(%)

(2) 幼児期の教育で、力を入れてほしいと思うこと

問25 幼児期の教育では、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	遊びを中心としたさまざまな経験を積ませること	51.8%
2	文字の読み方や数の数え方などに関する興味や関心を養うこと	13.6%
3	きちんとした「しつけ」を行うこと	47.9%
4	「早寝早起き朝ごはん」「運動・外遊び」などの望ましい生活習慣を身につけること	43.2%
5	道徳心や社会性を育てること	42.2%
6	情操・感性を育てること	16.1%
7	創造力を育てること	14.5%
8	体力をつけ、たくましさを養うこと	20.7%
9	地域の自然に触れたり、地域住民と交流したりすること	26.4%
10	その他（具体的に：)	0.8%
	(無回答)	5.5%

幼児期の教育で、力を入れてほしいと思うことについて、「遊びを中心とした様々な経験を積ませること」(51.8%)が最も多く、次いで「きちんとした「しつけ」を行うこと」(47.9%)、「早寝早起き朝ごはん」「運動・外遊び」などの望ましい生活習慣を身につけること」(43.2%)、「道徳心や社会性を育てること」(42.2%)などとなっている。

図表 5-A-(2)-1 幼児期の教育で、力を入れてほしいと思うこと

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 遊びを中心とした様々な経験を積ませること	51.8	817 人
(2) 文字の読み方や数の数え方などに関する興味や関心を養うこと	13.6	215 人
(3) きちんとした「しつけ」を行うこと	47.9	755 人
(4) 「早寝早起き朝ごはん」「運動・外遊び」などの望ましい生活習慣を身につけること	43.2	681 人
(5) 道徳心や社会性を育てること	42.2	665 人
(6) 情操・感性を育てること	16.1	254 人
(7) 創造力を育てること	14.5	229 人
(8) 体力をつけ、たくましさを養うこと	20.7	327 人
(9) 地域の自然に触れたり、地域住民と交流したりすること	26.4	416 人
(10) その他	0.8	13 人
無回答	5.5	86 人

グラフ単位：(%)

(3) 小学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

問26 小学校の教育では、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	基礎的・基本的な学力の習得	60.1%
2	基本的な生活習慣・規律の確立	43.1%
3	道徳教育の充実	38.3%
4	いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止	41.4%
5	健康な体づくりと体力の向上	38.1%
6	学力・学習意欲の向上	18.1%
7	体験活動の充実	15.4%
8	国際的な視野を獲得する機会の充実	6.5%
9	望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	7.7%
10	障害のある児童への支援	9.6%
11	その他（具体的に：)	1.0%
	(無回答)	4.7%

小学校の教育で、力を入れてほしいと思うことについて、「基礎的・基本的な学力の習得」(60.1%)が最も多く、次いで「基本的な生活習慣・規律の確立」(43.1%)、「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」(41.4%)、「道徳教育の充実」(38.3%)などとなっている。

図表 5-A-(3)-1 小学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 基礎的・基本的な学力の習得	60.1	947 人
(2) 基本的な生活習慣・規律の確立	43.1	679 人
(3) 道徳教育の充実	38.3	604 人
(4) いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止	41.4	653 人
(5) 健康な体づくりと体力の向上	38.1	600 人
(6) 学力・学習意欲の向上	18.1	286 人
(7) 体験活動の充実	15.4	243 人
(8) 国際的な視野を獲得する機会の充実	6.5	103 人
(9) 望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	7.7	122 人
(10) 障害のある児童への支援	9.6	152 人
(11) その他	1.0	16 人
無回答	4.7	74 人

グラフ単位：(%)

(4) 中学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

問27 中学校の教育では、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	基礎的・基本的な学力の習得	42.6%
2	基本的な生活習慣・規律の確立	26.8%
3	道徳教育の充実	33.9%
4	いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止	48.9%
5	健康な体づくりと体力の向上	21.8%
6	学力・学習意欲の向上	34.6%
7	体験活動の充実	14.8%
8	国際的な視野を獲得する機会の充実	16.2%
9	望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	17.5%
10	障害のある生徒への支援	7.0%
11	部活動の充実	13.1%
12	その他（具体的に：)	1.3%
	(無回答)	4.8%

中学校の教育で、力を入れてほしいと思うことについて、「いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止」(48.9%)が最も多く、次いで「基礎的・基本的な学力の習得」(42.6%)、「学力・学習意欲の向上」(34.6%)、「道徳教育の充実」(33.9%)などとなっている。

図表 5-A-(4)-1 中学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 基礎的・基本的な学力の習得	42.6	671 人
(2) 基本的な生活習慣・規律の確立	26.8	423 人
(3) 道徳教育の充実	33.9	535 人
(4) いじめ・不登校等の早期発見、早期対応、問題行動の防止	48.9	771 人
(5) 健康な体づくりと体力の向上	21.8	343 人
(6) 学力・学習意欲の向上	34.6	545 人
(7) 体験活動の充実	14.8	234 人
(8) 国際的な視野を獲得する機会の充実	16.2	255 人
(9) 望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	17.5	276 人
(10) 障害のある児童への支援	7.0	110 人
(11) 部活動の充実	13.1	206 人
(12) その他	1.3	20 人
無回答	4.8	76 人

グラフ単位：(%)

(5) 高等学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

問28 高等学校の教育では、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	いじめ・不登校の早期発見、早期対応、問題行動の防止	31.2%
2	生徒の進路実現のための学力の習得	43.1%
3	望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	48.4%
4	道德教育の充実	24.0%
5	学力・学習意欲の向上	23.1%
6	国際的な視野を獲得する機会の充実	34.3%
7	健康な体づくりと体力の向上	16.8%
8	障害のある生徒への支援	6.0%
9	部活動の充実	9.6%
10	インターンシップ（就業体験）など就職支援の充実	23.7%
11	地元企業・事業所のニーズに応じた専門教育の充実	15.1%
12	その他（具体的に：)	1.1%
	（無回答）	5.3%

高等学校の教育で、力を入れてほしいと思うことについて、「望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成」（48.4%）が最も多く、次いで「生徒の進路実現のための学力の習得」（43.1%）、「国際的な視野を獲得する機会の充実」（34.3%）、「いじめ・不登校の早期発見、早期対応、問題行動の防止」（31.2%）などとなっている。

図表 5-A-(5)-1 高等学校の教育で、力を入れてほしいと思うこと

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) いじめ・不登校の早期発見、早期対応、問題行動の防止	31.2	491 人
(2) 生徒の進路実現のための学力の習得	43.1	679 人
(3) 望ましい勤労観、職業観や社会的に自立する力の育成	48.4	762 人
(4) 道德教育の充実	24.0	378 人
(5) 学力・学習意欲の向上	23.1	364 人
(6) 国際的な視野を獲得する機会の充実	34.3	540 人
(7) 健康な体づくりと体力の向上	16.8	264 人
(8) 障害のある生徒への支援	6.0	95 人
(9) 部活動の充実	9.6	152 人
(10) インターンシップ(就業体験)など就職支援の充実	23.7	374 人
(11) 地元企業・事業所のニーズに応じた専門教育の充実	15.1	238 人
(12) その他	1.1	18 人
無回答	5.3	83 人

グラフ単位：(%)

5-B. 子どもの教育(家庭・地域)について

(1)しつけや学習など家庭での教育の状況

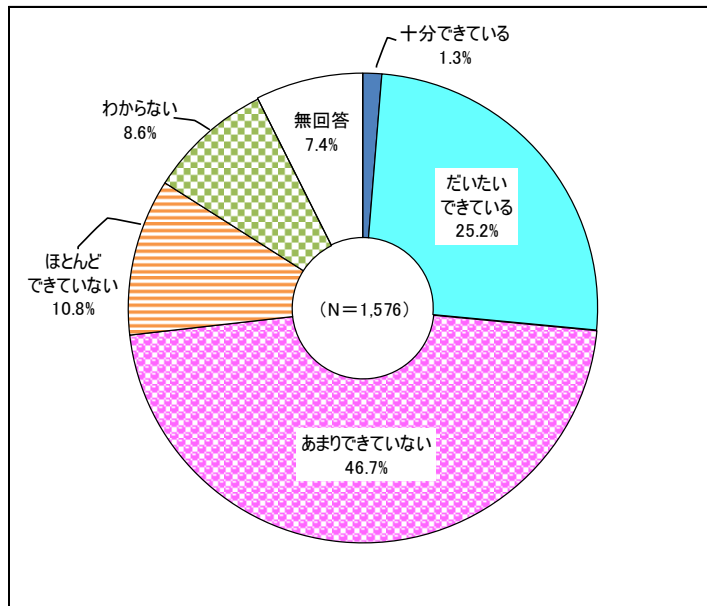
問29 周囲を考えたとき、最近、しつけや学習など家庭での教育が十分にできていると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1 十分できている	1.3%
2 だいたいできている	25.2%
3 あまりできていない	46.7%
4 ほとんどできていない	10.8%
5 わからない	8.6%
(無回答)	7.4%

しつけや学習など家庭での教育の状況について、「あまりできていない」(46.7%)が最も多く、次いで「だいたいできている」(25.2%)、「ほとんどできていない」(10.8%)、「わからない」(8.6%)などとなっている。

図表 5-B-(1)-1 しつけや学習など家庭での教育の状況



(2) 家庭での教育を充実させるために必要だと思うこと

問30 家庭での教育を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	親の子どもへの積極的な関わり	59.8%
2	子どもが体験活動を行う機会の提供	33.1%
3	親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善	59.5%
4	家庭教育の重要性についての啓発	33.9%
5	子どもや親同士が交流できる機会の提供	32.5%
6	家庭教育に関する相談体制の充実	23.4%
7	その他（具体的に：)	3.6%
	(無回答)	6.9%

家庭での教育を充実させるために必要だと思うことについて、「親の子どもへの積極的な関わり」(59.8%)が最も多く、次いで「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」(59.5%)、「家庭教育の重要性についての啓発」(33.9%)、「子どもが体験活動を行う機会の提供」(33.1%)などとなっている。

図表 5-B-(2)-1 家庭での教育を充実させるために必要だと思うこと

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 親の子どもへの積極的な関わり	59.8	943 人
(2) 子どもが体験活動を行う機会の提供	33.1	521 人
(3) 親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善	59.5	937 人
(4) 家庭教育の重要性についての啓発	33.9	534 人
(5) 子どもや親同士が交流できる機会の提供	32.5	512 人
(6) 家庭教育に関する相談体制の充実	23.4	369 人
(7) その他	3.6	57 人
無回答	6.9	109 人

グラフ単位：(%)

(3) 地域における大人と子どもとの関わり

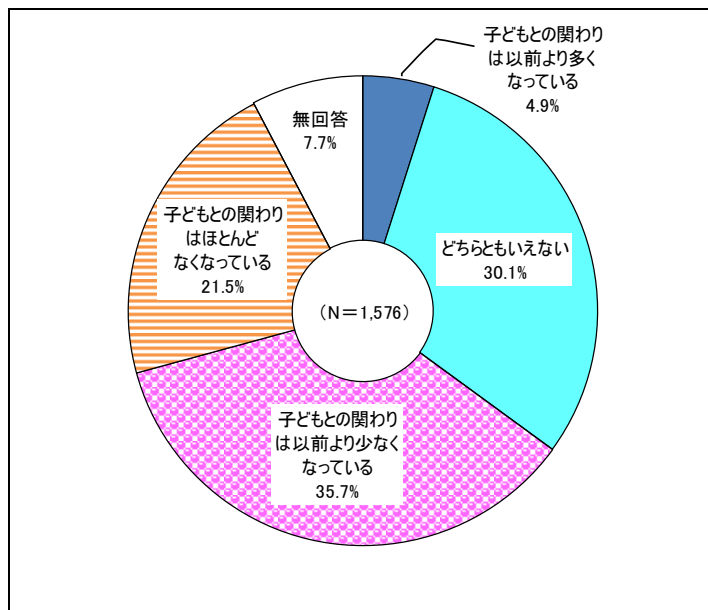
問31 地域における大人と子どもとの関わりについてどう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1	子どもとの関わりは以前より多くなっている	4.9%
2	どちらともいえない	30.1%
3	子どもとの関わりは以前より少なくなっている	35.7%
4	子どもとの関わりはほとんどなくなっている	21.5%
	(無回答)	7.7%

地域における大人と子どもとの関わりについて、「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」(35.7%)が最も多く、次いで「どちらともいえない」(30.1%)、「子どもとの関わりはほとんどなくなっている」(21.5%)、「子どもとの関わりは以前より多くなっている」(4.9%)などとなっている。

図表 5-B-(3)-1 地域における大人と子どもとの関わり



(4) 地域社会で教育的活動を実践する場合、携わりたい活動

問32 地域社会で教育的活動を実践するとしたら、どのようなものに携わっていききたいと思えますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=1,576】

1	学校の授業や行事等の参観	27.1%
2	登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援	54.9%
3	学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動	35.1%
4	放課後や週末を利用した子どもたちの学習・スポーツ・文化活動への支援	31.5%
5	文化祭や運動会、体験活動など学校行事運営への支援	25.3%
6	花壇の整備や学校図書館の蔵書整理など学校環境整備への支援	17.8%
7	授業の講師や授業のアシスタントなど学習活動への支援	11.6%
8	部活動指導や大会引率などへの支援	10.2%
9	学校運営の基本方針や学校の教育活動を評価する委員会への参加	7.4%
10	子育てに関する保護者向けの学習会や研修会への支援	19.1%
11	その他（具体的に：)	2.9%
	(無回答)	11.0%

地域社会で教育的活動を実践する場合、携わりたい活動について、「登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援」(54.9%)が最も多く、次いで「学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動」(35.1%)、「放課後や週末を利用した子どもたちの学習・スポーツ・文化活動への支援」(31.5%)、「学校の授業や行事等の参観」(27.1%)などとなっている。

図表 5-B-(4)-1 地域社会で教育的活動を実践する場合、携わりたい活動

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 学校の授業や行事等の参観	27.1	427 人
(2) 登下校の見守りや防犯のための巡回など安心・安全確保への支援	54.9	865 人
(3) 学校や地域の施設を活用した地域住民による交流活動	35.1	553 人
(4) 放課後や週末を利用した子どもたちの学習・スポーツ・文化活動への支援	31.5	496 人
(5) 文化祭や運動会、体験活動など学校行事運営への支援	25.3	398 人
(6) 花壇の整備や学校図書館の蔵書整理など学校環境整備への支援	17.8	280 人
(7) 授業の講師や授業のアシスタントなど学習活動への支援	11.6	183 人
(8) 部活動指導や大会引率などへの支援	10.2	161 人
(9) 学校運営の基本方針や学校の教育活動を評価する委員会への参加	7.4	117 人
(10) 子育てに関する保護者向けの学習会や研修会への支援	19.1	301 人
(11) その他	2.9	45 人
無回答	11.0	174 人

グラフ単位：(%)

5-C. 子どもの教育全般について

(1) これからの子どもたちにとって、特に必要とされる資質・能力

問33 これからの子どもたちにとって、特に必要とされる資質・能力は何だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	読み・書き・計算などの基礎的な学力	28.4%
2	自分の考えを的確に相手に伝える力	40.7%
3	コンピュータやインターネットを使いこなす力	12.1%
4	語学力や国際感覚	21.2%
5	自ら学ぶ意欲や主体的に学ぶ力	25.5%
6	自ら考え判断する力	34.5%
7	他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心	46.3%
8	健康と体力	14.6%
9	困難に耐える力	18.9%
10	他人を尊重し、皆で協力し、社会を生き抜く力	34.5%
11	その他（具体的に：)	1.0%
	（無回答）	5.8%

これからの子どもたちにとって、特に必要とされる資質・能力について、「他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心」(46.3%)が最も多く、次いで「自分の考えを的確に相手に伝える力」(40.7%)、「自ら考え判断する力」「他人を尊重し、皆で協力し、社会を生き抜く力」(ともに34.5%)などとなっている。

図表 5-C-(1)-1 これからの子どもたちにとって、特に必要とされる資質・能力

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 読み・書き・計算などの基礎的な学力	28.4	447 人
(2) 自分の考えを的確に相手に伝える力	40.7	641 人
(3) コンピュータやインターネットを使いこなす力	12.1	191 人
(4) 語学力や国際感覚	21.2	334 人
(5) 自ら学ぶ意欲や主体的に学ぶ力	25.5	402 人
(6) 自ら考え判断する力	34.5	543 人
(7) 他人を思いやる心、感動する心、ボランティア精神などの豊かな心	46.3	729 人
(8) 健康と体力	14.6	230 人
(9) 困難に耐える力	18.9	298 人
(10) 他人を尊重し、皆で協力し、社会を生き抜く力	34.5	544 人
(11) その他	1.0	16 人
無回答	5.8	92 人

グラフ単位：(%)

(2)子どもたちの教育環境で、これから特に大切だと思うこと

問34 子どもたちの教育環境で、これからはどのようなことが特に大切だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	学校の施設や設備を整備すること	8.8%
2	教員の資質や指導力を向上させること	47.3%
3	教員がゆとりをもって子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと	33.2%
4	社会の変化やニーズに合わせて教育の内容を見直すこと	22.6%
5	学校と家庭や地域のつながりを深めること	28.8%
6	学科・コースの新設など魅力ある高校づくりを進めること	10.7%
7	障害のある子どもがきちんと学べること	9.9%
8	親と子のコミュニケーションがしっかりとれるようにすること	29.6%
9	家庭教育がしっかりとできるようにすること	19.0%
10	安全・安心な地域づくりをすること	26.3%
11	だれもが、いつでも、気軽に体を動かしたり、読書や文化・芸術活動を楽しんだりできること	11.7%
12	保護者の教育費の負担を少なくすること	17.1%
13	その他（具体的に：)	1.8%
	(無回答)	6.6%

子どもたちの教育環境で、これから特に大切だと思うことについて、「教員の資質や指導力を向上させること」(47.3%)が最も多く、次いで「教員がゆとりをもって子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと」(33.2%)、「親と子のコミュニケーションがしっかりとれるようにすること」(29.6%)、「学校と家庭や地域のつながりを深めること」(28.8%)などとなっている。

図表 5-C-(2)-1 子どもたちの教育環境で、これから特に大切だと思うこと

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 学校の施設や設備を整備すること	8.8	138 人
(2) 教員の資質や指導力を向上させること	47.3	746 人
(3) 教員がゆとりをもって子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと	33.2	524 人
(4) 社会の変化やニーズに合わせて教育の内容を見直すこと	22.6	356 人
(5) 学校と家庭や地域のつながりを深めること	28.8	454 人
(6) 学科・コースの新設など魅力ある高校づくりを進めること	10.7	169 人
(7) 障害のある子どもがきちんと学べること	9.9	156 人
(8) 親と子のコミュニケーションがしっかりとれるようにすること	29.6	466 人
(9) 家庭教育がしっかりできるようにすること	19.0	299 人
(10) 安全・安心な地域づくりをすること	26.3	415 人
(11) だれもが、いつでも、気軽に体を動かしたり、読書や文化・芸術活動を楽しんだりできること	11.7	185 人
(12) 保護者の教育費の負担を少なくすること	17.1	270 人
(13) その他	1.8	28 人
無回答	6.6	104 人

グラフ単位：(%)

5-D. 生涯学習・スポーツについて

(1) 生涯学習を充実させるために必要だと思うこと

問35 生涯学習を充実させるためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	住民の希望にあう講座・教室・イベントを増やす	44.7%
2	学習についての情報提供を充実する	26.0%
3	乳幼児などを抱える親や障害をもつ人が学習活動に参加できるようにする	24.2%
4	職業や資格取得などに役立つような高度な内容の講座を増やす	19.5%
5	学習の成果を生かせる機会(人材バンク、学習指導・発表の場、ボランティア活動など)を充実する	21.3%
6	生涯学習関係施設を夜間や休日などにも利用できるようにする	25.4%
7	身近なところに気軽に利用できる施設を増やす	47.0%
8	小・中・高・大学などの施設を開放し、もっと活用する	16.8%
9	交流機能や学習相談など、さまざまな機能を備えた施設の充実を図る	14.8%
10	その他(具体的に:)	1.5%
	(無回答)	8.2%

生涯学習を充実させるために必要だと思うことについて、「身近なところに気軽に利用できる施設を増やす」(47.0%)が最も多く、次いで「住民の希望にあう講座・教室・イベントを増やす」(44.7%)、「学習についての情報提供を充実する」(26.0%)、「生涯学習関係施設を夜間や休日などにも利用できるようにする」(25.4%)などとなっている。

図表 5-D-(1)-1 生涯学習を充実させるために必要だと思うこと

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 住民の希望にあう講座・教室・イベントを増やす	44.7	705 人
(2) 学習についての情報提供を充実する	26.0	410 人
(3) 乳幼児などを抱える親や障害をもつ人が学習活動に参加できるようにする	24.2	381 人
(4) 職業や資格取得などに役立つような高度な内容の講座を増やす	19.5	308 人
(5) 学習の成果を生かせる機会(人材バンク、学習指導・発表の場、ボランティア活動など)を充実する	21.3	336 人
(6) 生涯学習関係施設を夜間や休日などにも利用できるようにする	25.4	400 人
(7) 身近なところに気軽に利用できる施設を増やす	47.0	740 人
(8) 小・中・高・大学などの施設を開放し、もっと活用する	16.8	265 人
(9) 交流機能や学習相談など、さまざまな機能を備えた施設の充実を図る	14.8	233 人
(10) その他	1.5	23 人
無回答	8.2	130 人

グラフ単位：(%)

(2) 過去1年の間に、運動やスポーツを行った日数

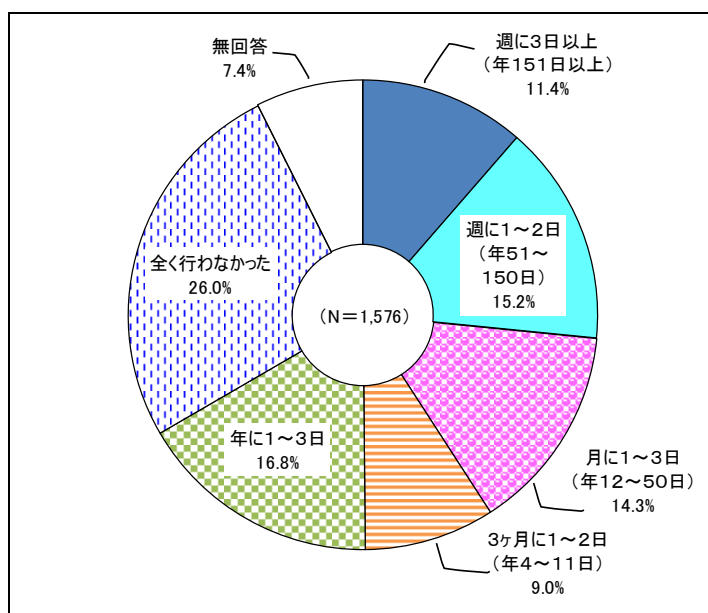
問36 過去1年の間に、運動やスポーツを行った日数を合わせると何日ぐらいになりますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,576】

1	週に3日以上 (年151日以上)	11.4%
2	週に1～2日 (年51～150日)	15.2%
3	月に1～3日 (年12～50日)	14.3%
4	3ヶ月に1～2日 (年4～11日)	9.0%
5	年に1～3日	16.8%
6	全く行わなかった (無回答)	26.0% 7.4%

過去1年の間に、運動やスポーツを行った日数について、「全く行わなかった」(26.0%)が最も多く、次いで「年に1～3日」(16.8%)、「週に1～2日 (年51～150日)」(15.2%)、「月に1～3日 (年12～50日)」(14.3%)などとなっている。

図表 5-D-(2)-1 過去1年の間に、運動やスポーツを行った日数



(3) 今まで以上に運動やスポーツをするために必要な条件

問37 どのような条件が整えば、今まで以上に運動やスポーツをしますか。次の中から3つまで選んでください。

【回答者数=1,576】

1	スポーツ教室やスポーツイベントが開催されれば	11.8%
2	気に入った運動・スポーツがあれば	30.3%
3	一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば	32.7%
4	気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば	29.8%
5	スポーツ施設が身近にあれば	27.4%
6	スポーツ施設の利用料金が安くなれば	23.9%
7	スポーツ指導者がいれば	7.3%
8	休暇(自由時間)が増加すれば	27.3%
9	現状で満足している	15.9%
10	その他(具体的に:)	5.7%
	(無回答)	8.6%

今まで以上に運動やスポーツをするために必要な条件について、「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」(32.7%)が最も多く、次いで「気に入った運動・スポーツがあれば」(30.3%)、「気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば」(29.8%)、「スポーツ施設が身近にあれば」(27.4%)などとなっている。

図表 5-D-(3)-1 今まで以上に運動やスポーツをするために必要な条件

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) スポーツ教室やスポーツイベントが開催されれば	11.8	186 人
(2) 気に入った運動・スポーツがあれば	30.3	478 人
(3) 一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば	32.7	516 人
(4) 気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば	29.8	469 人
(5) スポーツ施設が身近にあれば	27.4	432 人
(6) スポーツ施設の利用料金が安くなれば	23.9	377 人
(7) スポーツ指導者がいれば	7.3	115 人
(8) 休暇(自由時間)が増加すれば	27.3	430 人
(9) 現状で満足している	15.9	251 人
(10) その他	5.7	90 人
無回答	8.6	136 人

グラフ単位：(%)

(4)お子さんの有無

問38 あなたにはお子さんがいますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。(同居・別居は問いません。)

【回答者数=1,576】

1	小学校入学前の子どもがいる	6.7%
2	小学校に通う子どもがいる	7.9%
3	中学校に通う子どもがいる	6.7%
4	高等学校に通う子どもがいる	7.1%
5	大学や大学院に通う子どもがいる	6.5%
6	専修学校や各種学校に通う子どもがいる	1.4%
7	特別支援学校に通う子どもがいる	0.4%
8	上記以外の子どもがいる	48.1%
9	子どもはいない	23.6%
	(無回答)	7.7%

お子さんの有無について、「上記以外の子どもがいる」(48.1%)が最も多く、次いで「子どもはいない」(23.6%)、「小学校に通う子どもがいる」(7.9%)、「高等学校に通う子どもがいる」(7.1%)などとなっている。

図表 5-D-(4)-1 お子さんの有無

		回答数
全体	100.0	1,576 人
(1) 小学校入学前の子どもがいる	6.7	106 人
(2) 小学校に通う子どもがいる	7.9	124 人
(3) 中学校に通う子どもがいる	6.7	105 人
(4) 高等学校に通う子どもがいる	7.1	112 人
(5) 大学や大学院に通う子どもがいる	6.5	102 人
(6) 専修学校や各種学校に通う子どもがいる	1.4	22 人
(7) 特別支援学校に通う子どもがいる	0.4	6 人
(8) 上記以外の子どもがいる	48.1	758 人
(9) 子どもはいない	23.6	372 人
無回答	7.7	121 人

グラフ単位：(%)

6. 県政の重要度と満足度について

県民の皆さまのニーズ(要望)に対応した県政を進めるためには、皆さまが「県行政に対して何を求めているのか」、「現在の状況にどのくらい満足しているのか」を知り、それを県政に反映させていくことが重要となります。

そこで、「せとうち田園都市香川創造プラン」※（平成23～27年度）の各施策の達成状況の評価したいと思いますので、各施策に対する重要度と満足度について皆さまの考えをお伺いします。以下の質問にお答えください。

「重要度」については、あなたが今の生活やこれからの生活を送っていくうえで各施策がどのくらい重要かを、また、「満足度」については、あなたが各施策に対して現状にどのくらい満足しているかを、それぞれ五段階で評価してください。

※「せとうち田園都市香川創造プラン」

本県の進むべき基本的方向とそれを実現するための方策を明らかにした県政運営の基本指針である「せとうち田園都市香川創造プラン（平成23～27年度）」を平成23年度に策定しました。

本プランの基本目標である「せとうち田園都市の創造」（活気あふれる街と美しい自然が隣接し、生涯を通じて安心して生活できる環境の中で、人々が生きがいを見だし、みずからの能力を存分に発揮できる、また、その魅力に引かれて集い合う、瀬戸内香川の生活圏域の創造）をめざして各施策に取り組んでいます。

「せとうち田園都市の創造」を実現するための基本方針として、活力ある産業づくりと働く場の確保を主な内容とする「元気の出る香川づくり」、生涯を通じた安心の確保をめざす「安心できる香川づくり」、たくましい人づくりと魅力ある地域づくりをめざす「夢と希望あふれる香川づくり」の3つの香川づくりを掲げています。

(1)元気の出る香川づくり（重要度）

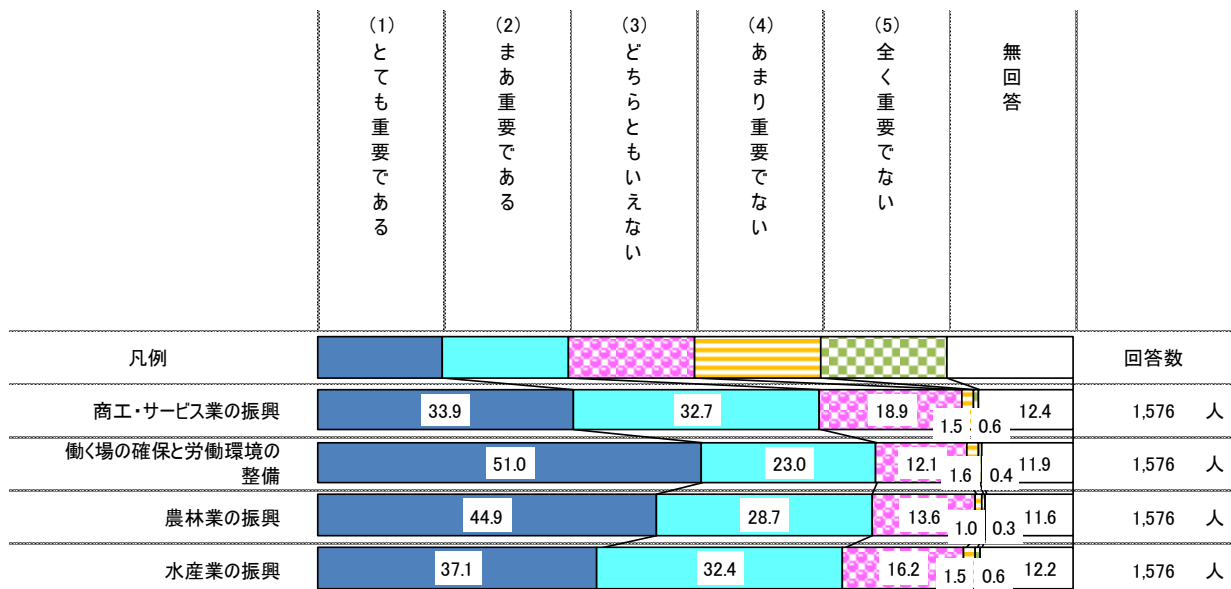
問40 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「元気の出る香川づくり」についておたずねします。「元気の出る香川づくり」に向けて進めている施策の1～4についてあなたの<重要度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,576】

項 目	重要度					
	とても重要である	まあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない	無回答
1 商工・サービス業の振興	33.9	32.7	18.9	1.5	0.6	12.4
2 働く場の確保と労働環境の整備	51.0	23.0	12.1	1.6	0.4	11.9
3 農林業の振興	44.9	28.7	13.6	1.0	0.3	11.6
4 水産業の振興	37.1	32.4	16.2	1.5	0.6	12.2

「元気の出る香川づくり」について【重要度】をみると、どの施策項目でも「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】が6割を超えており、特に「働く場の確保と労働環境の整備」(74.0%)、「農林業の振興」(73.6%)と、7割を超えている。

図表 6-(1) 元気の出る香川づくり（重要度）



(2)元気の出る香川づくり（満足度）

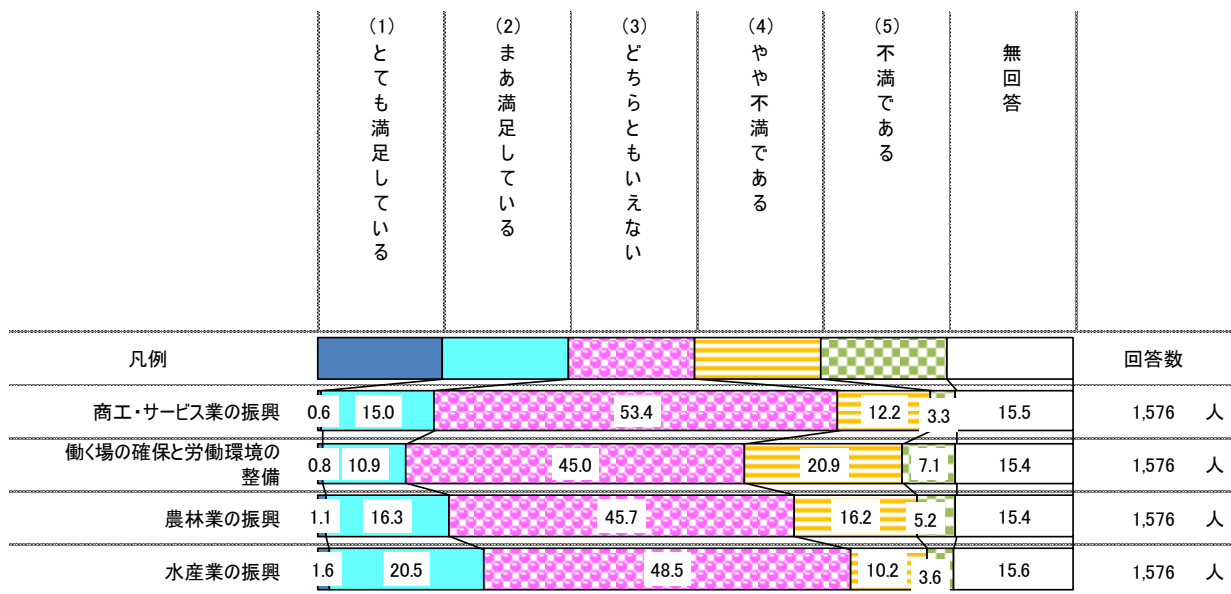
問40 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「元気の出る香川づくり」についておたずねします。「元気の出る香川づくり」に向けて進めている施策の1～4についてあなたの<満足度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,576】

項目	重要度					
	とても満足している	まあ満足している	どちらともいえない	あまり不満である	とても不満である	無回答
1 商工・サービス業の振興	0.6	15.0	53.4	12.2	3.3	15.5
2 働く場の確保と労働環境の整備	0.8	10.9	45.0	20.9	7.1	15.4
3 農林業の振興	1.1	16.3	45.7	16.2	5.2	15.4
4 水産業の振興	1.6	20.5	48.5	10.2	3.6	15.6

「元気の出る香川づくり」について【満足度】をみると、どの施策項目でも「どちらともいえない」が最も多く、4割を超えている。「商工・サービス業の振興」、「水産業の振興」については、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が「やや不満である」と「不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。一方「働く場の確保と労働環境の整備」、「農林業の振興」では、【不満である】が【満足している】を上回っており、特に「働く場の確保と労働環境の整備」ではその差が大きくなっている。

図表 6-(2) 元気の出る香川づくり（満足度）



グラフ単位: (%)

(3)安心できる香川づくり（重要度）

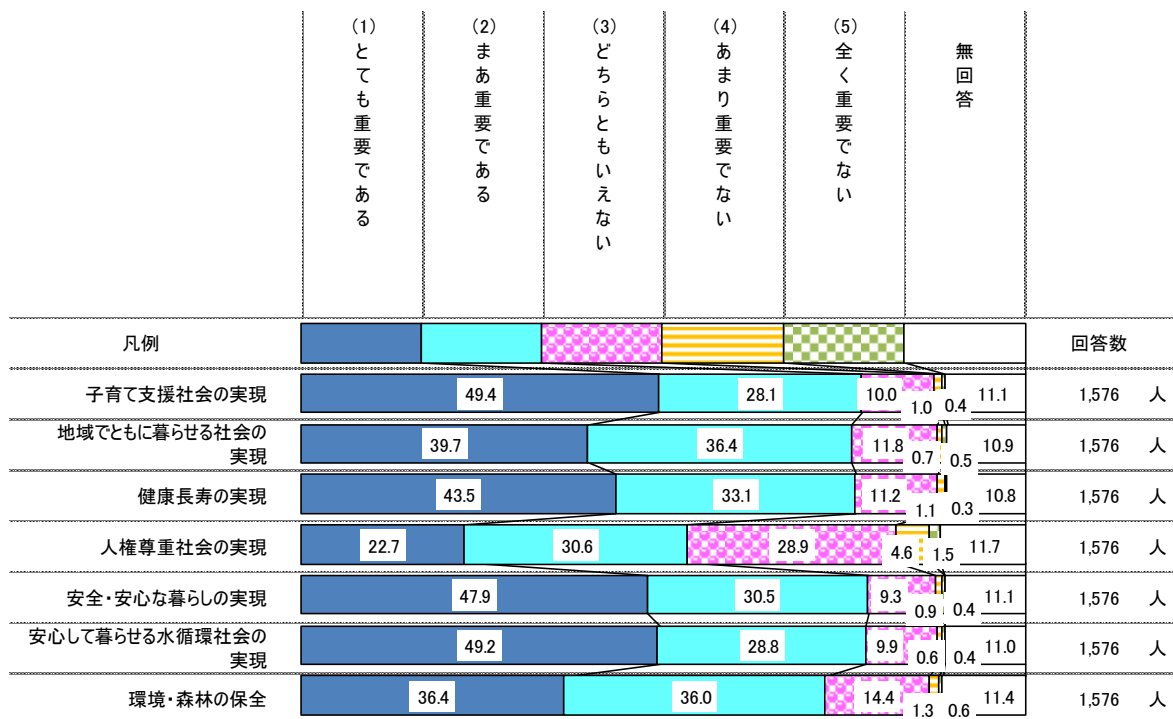
問41 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「安心できる香川づくり」についておたずねします。「安心できる香川づくり」に向けて進めている施策の5～11についてあなたの<重要度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,576】

項目	重要度					
	とても重要である	まあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない	無回答
5 子育て支援社会の実現	49.4	28.1	10.0	1.0	0.4	11.1
6 地域でともに暮らせる社会の実現	39.7	36.4	11.8	0.7	0.5	10.9
7 健康長寿の実現	43.5	33.1	11.2	1.1	0.3	10.8
8 人権尊重社会の実現	22.7	30.6	28.9	4.6	1.5	11.7
9 安全・安心な暮らしの実現	47.9	30.5	9.3	0.9	0.4	11.1
10 安心して暮らせる水循環社会の実現	49.2	28.8	9.9	0.6	0.4	11.0
11 環境・森林の保全	36.4	36.0	14.4	1.3	0.6	11.4

「安心できる香川づくり」について【重要度】をみると、ほとんどの施策項目で【重要である】が7割を超えており、特に「安全・安心な暮らしの実現」、「安心して暮らせる水循環型社会の実現」、「子育て支援社会の実現」で高い割合となっている。

図表 6-(3) 安心できる香川づくり（重要度）



グラフ単位：(%)

(4)安心できる香川づくり（満足度）

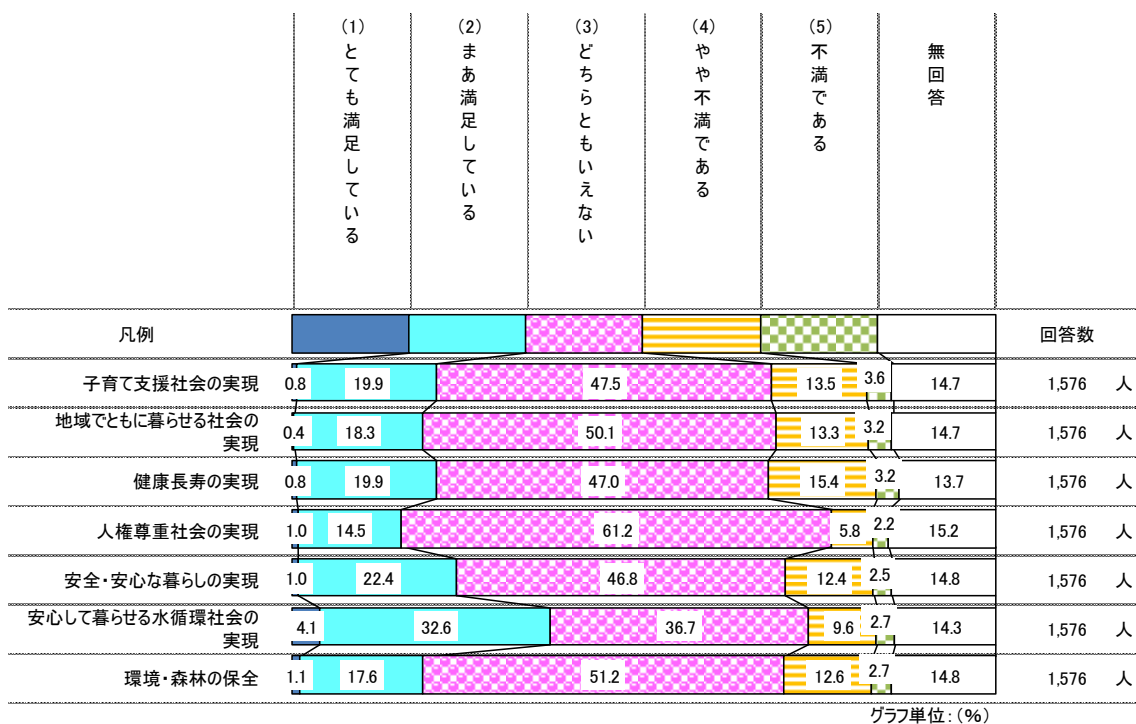
問41 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「安心できる香川づくり」についておたずねします。「安心できる香川づくり」に向けて進めている施策の5～11についてあなたの<満足度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,576】

項目	満足度					
	とても満足している	まあ満足している	どちらともいえない	あまり不満である	とても不満である	無回答
5 子育て支援社会の実現	0.8	19.9	47.5	13.5	3.6	14.7
6 地域でともに暮らせる社会の実現	0.4	18.3	50.1	13.3	3.2	14.7
7 健康長寿の実現	0.8	19.9	47.0	15.4	3.2	13.7
8 人権尊重社会の実現	1.0	14.5	61.2	5.8	2.2	15.2
9 安全・安心な暮らしの実現	1.0	22.4	46.8	12.4	2.5	14.8
10 安心して暮らせる水循環社会の実現	4.1	32.6	36.7	9.6	2.7	14.3
11 環境・森林の保全	1.1	17.6	51.2	12.6	2.7	14.8

「安心できる香川づくり」について【満足度】をみると、どの施策項目でも「どちらともいえない」が最も多く、3割を超えている。どの施策項目でも【満足している】が【不満である】を上回っている。特に「安心して暮らせる水循環型社会の実現」(36.7%)が最も多くなっており、比較的他の項目より満足度は高い結果となっている。

図表 6-(3) 安心できる香川づくり（満足度）



(5) 夢と希望あふれる香川づくり (重要度)

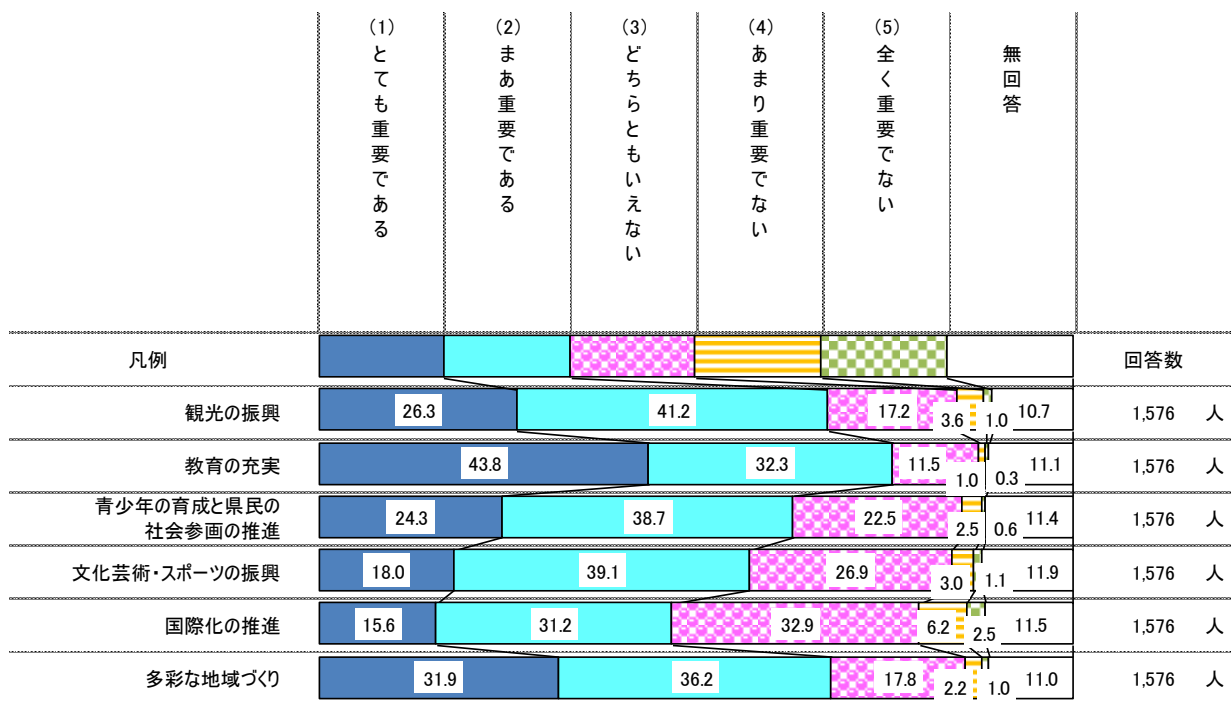
問42 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「夢と希望あふれる香川づくり」についておたずねします。「夢と希望あふれる香川づくり」に向けて進めている施策の12～17についてあなたの<重要度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,576】

項 目	重要度					
	とても重要である	まあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない	無回答
12 観光の振興	26.3	41.2	17.2	3.6	1.0	10.7
13 教育の充実	43.8	32.3	11.5	1.0	0.3	11.1
14 青少年の育成と県民の社会参画の推進	24.3	38.7	22.5	2.5	0.6	11.4
15 文化芸術・スポーツの振興	18.0	39.1	26.9	3.0	1.1	11.9
16 国際化の推進	15.6	31.2	32.9	6.2	2.5	11.5
17 多彩な地域づくり	31.9	36.2	17.8	2.2	1.0	11.0

「夢と希望あふれる香川づくり」について【重要度】をみると、多くの施策項目で【重要である】が6割を超えており、特に「教育の充実」(76.1%)が7割を超えている。

図表 6-(5) 夢と希望あふれる香川づくり (重要度)



(6) 夢と希望あふれる香川づくり (満足度)

問42 「せとうち田園都市香川創造プラン」の基本方針「夢と希望あふれる香川づくり」についておたずねします。「夢と希望あふれる香川づくり」に向けて進めている施策の12～17についてあなたの<満足度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,576】

項 目	満足度					無回答
	とても満足している	まあ満足している	どちらともいえない	あまり不満である	とても不満である	
12 観光の振興	1.0	20.7	47.7	12.6	4.1	14.0
13 教育の充実	0.8	20.1	47.9	12.4	4.1	14.7
14 青少年の育成と県民の社会参画の推進	0.8	13.8	61.0	7.9	2.2	14.3
15 文化芸術・スポーツの振興	1.1	19.5	55.8	6.7	1.9	14.9
16 国際化の推進	0.6	10.3	64.1	8.4	2.0	14.5
17 多彩な地域づくり	0.4	13.3	55.2	13.3	3.7	14.0

「夢と希望あふれる香川づくり」について【満足度】をみると、どの施策項目でも「どちらともいえない」が最も多く、4割を超えている。またほとんどの施策項目で【満足している】が【不満である】を上回っているが、「多彩な地域づくり」では【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 6-(6) 夢と希望あふれる香川づくり (満足度)

